

「月は今日も僕を見ている」

登場人物

新井圭太（あらい けいた）

川島優香（かわしま ゆうか）

麗樹（れいじゅ）

音楽・スキマスイッチ「ガラナ」

曲の盛り上がりによって併せて緞帳が上がる。

上手に腰の当たりまである台がある。（プレゼン用の台）後方。

センターに家庭用のちゃぶ台。前より。

下手に事務機がある。舞台は壁で囲まれている。

センター後方には、サイドボードがあり、写真が飾られている。時計が置いてある。

上手へ行くと台所やトイレがあり、下手は玄関になる。

圭太がちゃぶ台を拭いている。優香は下手後方に立って圭太をみている。

圭太、フキンを洗いに台所へ。優香、そのスキにサイドボードの写真立てに手を触れようとした時、一瞬暗転。横にする。しばらくして、戻ってくる圭太。時計をみる。圭太、ため息。

と、写真が横になっていること気づく。圭太、写真立てを元に戻す。

周りを見回し、再び時計をみて、それから玄関へ目をやる。

ちゃぶ台の上手側に座り、ため息をつく圭太。と、チャイムが鳴る。

立ち上がり、玄関へ向かう圭太。

優香、玄関の方をチラッとみた後台所へ行く。下手より圭太と麗樹が入ってくる。

わざわざすみません。遠い所まで。

いえ、困っている方がいらっしゃるのならどこへでもまいりますわ

青森からでしたっけ？

（少し考えて）・・・ええ。

新幹線ですか？

・・・ええ。

ありがとうございます。本当に遠いのに。

（ニツコリ笑って）いえ、いいんですよ。

あ、座ってください。

圭太、ちゃぶ台の下手側に座るようすすめる。

ありがとうございます。それでは、失礼して・・・。

ゆったりとした動作で座る麗樹

圭太、その対面に座り、一呼吸おいてから

・・・あの、お話の方は？

はい。おおそのことはお聞きしていますが。

圭太 信じてもらえますか!?

麗樹 だからこそ、こうして来たのです。

圭太 ・・・そうか・・・そうですよね。ありがとうございます。

麗樹 いつ頃からなのですか?

圭太 3日ほど前からです。

麗樹 話では突然、電気が消えたり、テレビがついたりするとか。

圭太 はい。その・・・その他にもいろいろ。

麗樹 足をつかまれたこともあったそうですね?

圭太 はい。それはこの3日間で一度だけです。電気関係がついたり消えたりは何回かあるのですが。それと、その・・・パーン、パーンという・・・。

麗樹 ラップ音?

圭太 っていうんですかね。何かこう、手をたたいているのとはまた違った音で・・・。

麗樹 よくある現象の一つです。

圭太 ・・・そうなんですか・・・。

麗樹 3日前以前にこういった現象はなかったのですか?

圭太 はい。

麗樹 全く?

圭太 はい。

麗樹 幼かった頃も含めて?

圭太 はい。そういうったことには全然縁がありませんでした。

麗樹 そうですか・・・。でも、それにしても妙に落ち着いていらっやいますね。

圭太 え?

麗樹 いえ、最近になって初めて経験なされたなら、もっとこう・・・恐がるというか、おびえると言っか・・・。とても落ち着いていらっやるように見えますものですから。

桂太 はあ・・・。

麗樹 しばしの間。

圭太 それでその・・・。

麗樹 はい。

圭太 お心当たりなんかありませんよね。何でそんな現象が起こるようになったのか・・・。

麗樹 それがその・・・。あるんです。

麗樹 え?

圭太 心当たりがあるんです。おそらく、ですけど。

麗樹 本当ですか!?(嬉しそうに)

圭太 え?

麗樹 あ、いえ。・・・。それで、心当たりというのは?

圭太 はい。・・・。その写真たてを見て下さい。

麗樹 麗樹立ち上がり、写真たてを手取る

圭太 ・・・お二人ともとても良い笑顔でうつってらっやいますね。とても幸せそう。

圭太 優香っていいんです。結婚の約束もしました。

麗樹 ……「ました」？というの？

圭太 死んだんです。十日前に。

麗樹 え？

麗樹、写真をもう一度見る。

圭太 十日前は記録的な大雨でした。カーブでタイヤが滑ったトラックにはねられて即死だったそうです。そうですか。

圭太 普段はもっと早い時間に帰ってきてたんですけど、その前の日に僕の仕事がつまらなくて、それで祝いするんだって、隣駅の大型スーパーまで買い物に行ってくれてたらしいんです。

麗樹、写真たてをゆつくり戻す。（写真たては立てる）

5

麗樹 すると、彼女が心当たり？

圭太 はい。先程、僕が落ち着いているとおっしゃいましたが、僕も全然知らない場所と同じ事があつたら怖いと思うんです。でも、この部屋で起こることは恐くないんです。全然恐くないんです。

麗樹 それは、きっと……

彼女だからだと思っんです。

圭太 なるほど。

麗樹 ……信じてもらえますか？

麗樹、ちやぶ台に戻って座り、カバンから資料を取り出す。

カルテのような物を見ながら。

麗樹 ……えーと……新井さん。

圭太 はい。

麗樹 もしかしたらあなたの彼女はあなたに何か伝えたいことがあるのかもしれない。もしかしたら何かに苦しみ、成仏出来ないでいるかもしれないのです。

圭太 （姿勢を直し）はい。

麗樹 そうついた霊の小さな声に耳をかたむけ、苦しみから解放することこそが私の役目なのです。おわかりになりますか？

圭太 （すがるように）はい。

麗樹 ご理解いただけ何よりです。それでは正式にご依頼されますか？

圭太 はい！ぜひお願いします！

麗樹 かしこまりました。では、申し遅れましたが、私、霊媒師の麗樹と申します。本件に関しましては、私が責任をもって当たらせて頂きます。

6

圭太 何卒宜しくお願いします。

麗樹 では、どのコースにされますか？

圭太 ……はい？

麗樹 コースをお選び下さい。

圭太 コース、ですか？

麗樹 はい。

圭太 えーと……あの、何のコースでしょう？

麗樹 サービスに関するコースです。松竹梅の3コースに分かれておりまして、梅から五十万円、百万円、三百万円となっております。あ、あと手付け金は三十万円になっておりますので、今、この場で頂戴いたします。

圭太 コース別になっている理由がわからないんですけど。今、責任をもってあたっていたらって……。

麗樹 もちろん、責任をもって当たらせていただきます。

圭太 じゃあ……。

麗樹 気持ちの問題ですね。

圭太 気持ちって……。

麗樹 新井さんの彼女に対する気持ちを測るだけです。

圭太 嫌な測りですね……。

麗樹 どうされますか？もちろんどのコースでも責任を持って対処しますが。

圭太 えー。

圭太、訳がわからないという感じになる。

麗樹 (ボソリと) でも梅はどうかなあ……。

圭太 はい？

麗樹 え？

圭太 今、何か？

麗樹 え？え？何が？

圭太 いえ……。

麗樹 それより、どうされるんです？

圭太 えー。

圭太、再びどう答えればいいのか分からなくなる。

麗樹 (ボソリと) 松にしたらいじやない。

圭太 はい？

麗樹 え？何か？

圭太 今、明らかに松にしろっておっしゃいましたよね？

麗樹 私がそんなことを言うわけじゃないですか。ご自身の心の中ですよ。もしくは、彼女の声かも。

圭太 えー。

麗樹 どうされるんですか？ご自分のお気持ちに聞いてみて下さい。

圭太 ……いや、もちろん、気持ちでは三百万円出して

麗樹 (深々と) ありがとうございます。

圭太 まだ最後まで言っていないですよ。

麗樹 彼女もきつと喜んでいることでしょう。

圭太 そ、そうですかね。

麗樹 それでは手付けの三十万円と半金の百五十万円の合計百八十万円を本日いただきます。残金は除霊完了後ということで。除霊には数日かかることもあります。

圭太 ……分かりました。

麗樹、カバンの中をガサゴソと探りながら

麗樹 領収書とかいります？

圭太 え？あ・・・いえ。

麗樹 そうですか。

麗樹、カバンを戻す。

麗樹 それでは、早速、彼女の霊と交信してみましよう。

圭太 お願いします。

麗樹 と、その前に、お水か何かいただけれますか。少々ノドがかわいてしましまして・・・。

圭太 あ、失礼しました。すぐ持ってきます。ウーロン茶でよろしいですか？

麗樹 ありがとうございます。

麗樹、深々とおじぎをする。圭太、台所へ。

圭太が奥へ去つたのを確認してから

舞台、麗樹だけにサス又はピンが当たり暗くなる。

・・・・ ったく気がきかねえヤローだな。

姿勢をくずし、くつろぐ麗樹。

立ち上がり、サイドボードなどをチェックする。

へー。なかなか上物じゃない。こりゃ、久々の力モだね。ネタが婚約者なら持つてる金全部はき出すかもね・・・。

今まで麗樹が座っていた所に再び明かり。優香が座っている。

ちよっと、それということよ！

優香

麗樹ふり返るが誰もいない。(同時に明かりが消える)

麗樹 あら、この時計も高そうね。ついでにいただこうかしらね。

麗樹元の場所に戻り座る。同時に圭太が戻ってくる。

圭太 お待たせしました。

麗樹 すみません。ありがとうございます。

ゆつくりウーロン茶を飲み干す麗樹。

おかげで一息つけましたわ。では、始めましょうか。

麗樹、カバンから数珠のようなものを取り出し、念じ始める。ブツブツと念仏を唱える麗樹。その間に

優香が下手から出てくる。

キエエー！

圭太 ・・・・ あ、あの・・・？

ゆつくりと目をあける麗樹。

・・・・ 私よ、分かる？

圭太 優香？・・・ 優香なのか？

麗樹 そう、私よ。

後ろにいる優香「え？」という顔をする。

圭太 やっぱり優香だったのか。

麗樹 おどろかせてゴメンね。

圭太 おどろいてなんかないよ。こわくもなかった。本当。優香だらうって思ってたから。

麗樹、突然苦しみだす。

ううううう……。

どうした？

苦しいの。痛い……寒い……。

大丈夫か？どうすればいい？どうすれば楽になれる？教えてくれ、何でもしてやるから。

……本当？

ああ、何でもしてやる。

じゃあ、まずこの人に約束している前金の百八十万円を現金で渡して。

分かった！今、現金でないから、銀行に行ってくる。すぐだから。1、2分で帰ってくる。それまで待てるか？

大丈夫。待ってる。

すぐ行ってくるからな！待ってるよ！

圭太、下手へはけて行く。一緒にはける優香。

舞台、再び麗樹にのみライト。

麗樹　今時、こんなにアツサリ引つかかる馬鹿もいるのね。疑い深い奴なんか2人しか知らないこととか質問してくるってのに。

再びサイドボートの引き出しなどを開けて見てみる。

麗樹　あら生命保険の証書じゃない。名義が彼氏で受取人が彼女か……。皮肉なものよね。受取人の方が先に死んじゃうんだから。うわっ。五千万？結構良い保険に入っているのね。

優香、再び戻ってくる。麗樹の動きをジッと見ている。

麗樹　……待てよ。あの単純さから見れば、勢いにまかせて受取人を私に変更出来るかもしれないわね……。これはビッグビジネスになりそうだわ。

何がビジネスよ！サギじゃな……！

優香、言い終わる前に消えてしまう。振り返る麗樹、誰もいない。キョロキョロと周りを見渡し、首をかしげる。

……誰かいるの？

シーンとしている。写真たてを持って見る。

……まさかね。幽霊なんているわけないじゃんね。

と、ドタドタと圭太が帰ってくる。

ただいま！

とたんに苦しみだす麗樹。

麗樹　苦しい。苦しい。痛いよー。痛いよー。

圭太　ホラ、現金で百八十万。持ってきたよ。

麗樹、ガバツと圭太から現金を奪って。

圭太　え？

一瞬にして札束を数える麗樹

麗樹　確かに百八十万円あります。ありがとございました。
圭太　あの。

麗樹 苦しいよー。痛いよー。寒いよー。

圭太 優香！優香、大丈夫か！？

麗樹 他にもお願いを聞いてくれる？

圭太 何でも言ってくれ！

麗樹 あのね、あその時計をこの人にあげてほしいの。

圭太 時計って・・・これのこと？

圭太、サイドボードの時計を手にとる。

麗樹 うん。

圭太 でも、これはここに引つ越してきた記念に、二人でお金を出し合って買った大切な時計だよ？

麗樹 それでもいいの。その時計が苦しみの原因のひとつなのよ。全く関係のないこの人が持っていてくれれば私の苦しみが一つ減るのよ。

圭太 分かった！分かったから！

麗樹、ガバツと圭太から時計を奪い取る。

圭太 ありがとう！

え。

急いでカバンに時計をしまう麗樹。ポンポンと嬉しそうにカバンをたたく麗樹。

圭太 あ、あの・・・。

麗樹 苦しいよ。痛いよ。

圭太 まだ何か？

麗樹 これが最後のお願いよ。

圭太 最後！？わ、分かった 何だ？何をすればいい？

麗樹 あそこに入ってる保険の受取人をこの人に変更して。

圭太 え？

麗樹 え？

圭太 ・・・・何で知ってるの？ここに保険が入ってるって。

麗樹 ・・・・だって私は優香よ。そのくらいのことは知ってるわよ。

圭太 いや、だって保険のことは優香には言ってなかったのに。

麗樹 え？

圭太 え？

一瞬の間。

麗樹 苦しいよー！痛いよー！寒いよー！

圭太 分かった！OK！全然OK！すぐ変える！ソッコー変える！ちよっと待ってて、今、印鑑持ってくる！
急いで上手へ去っていく圭太。再び麗樹にのみ明かり。

麗樹 フー。危なかった。勢いだけでごまかしたわね。

麗樹 カバンを開けて現金と時計をもう一度確認し、再びしまう。

麗樹 あそこまで単純だとどこまでダメせるか逆にチャレンジしたくなってくるわね。

優香 優香、上手より入ってくるが、暗いので客席からは見えない。麗樹の真正面に立つ。
ちよっと、いい加減にしないよね。

麗樹

はい？

突然現れた優香に驚く麗樹。

麗樹

あの・・・どなた？

優香

どなたじゃないわよ！人の名をかたつてよくも好き勝手やってくれたわね！？

麗樹

人の名をかたつて・・・え？

優香、写真たてを指さす。麗樹、ゆっくり写真たてを手に取りそこに写っている女性と目の前にいる女性を見比べる。

麗樹

え？これ・・・あら？え？

優香

私が見えるってことはまんざらインチキ霊媒師ってわけではなさそうね。

麗樹

え？だって、十日前に事故で死んだって・・・。

優香

ちよっと、どうしたのよ。

麗樹

そんな、まさか、嘘でしょ！

優香

大丈夫？ちよっと、大丈夫？

麗樹

優香、麗樹に近づこうと

麗樹

キャアー！悪霊退散！

優香

あのね、誰が悪霊よ！ちよっと！！

麗樹

いやー！！私なんか食べてもおいしくありませんから！！

優香

人を山姥みたいに言うのやめてくれる？ね、だから話を聞いて・・・！

言い途中で優香の照明が消える。優香、去り際に写真たてを倒して行く。上手へ。通常の照明へ戻る。

圭太

何ですか？今の悲鳴！？大丈夫ですか！？

麗樹

い、今、か、彼女が！

圭太

優香が？

麗樹

出た。

圭太

え？ええ。麗樹先生におろしていただきましたよね。

麗樹

そうじゃなくて、今、この写真の彼女が目の前に！

と、写真たてが倒れているのに気づき

麗樹

倒れてる！

「ふっ」と気を失う麗樹。

圭太

ああ！！麗樹先生！？ちよっと大丈夫ですか！？麗樹先生！

倒れた麗樹の体をゆする圭太。

圭太

き、救急車、救急車呼びますね！ちよっと待ってて下さいね！

圭太、上手へはける。再び現れる優香。

優香

起きなさいよ。ちよっと！起きなさいって！

目を覚ます麗樹

麗樹

ヒッまだた！！

優香

また出たじゃないわよ。本人を目の前にしてよくあんなことが出来るわね。

麗樹

ほんの出来心なんです。お許し下さい・・・。

優香

ちよっとやめてよ。別に呪い殺そうってんじゃないんだから。

麗樹 え？

優香 少なくとも、私が見えてるんでしょう？

うなずく麗樹

優香 じゃ、私もあなたを頼るしかないもの。

麗樹 え？つと、それはどういうこと。

圭太に伝えたいことがいろいろあるのよ。いきなりだったし、心残りでいっぱいよ。あ、もちろん、報酬は払うわ。私からね。全部終わったら私のキャッシュカードのありかと暗証番号を教えるから。三百万くらいは入ってたはずよ。だから、今カバンの中にある圭太のお金と時計は返してちょうだい。いいわね。え……ええ……。

麗樹 麗樹、ゆつくりカバンから現金と時計を取り出し、ちやぶ台の上に置く。

優香 ねえ、アナタ、本当に霊媒師？

麗樹 一応必要な知識は全部学んだわよ。

優香 じゃあ、何でそんなに驚くの？

麗樹 初めてなのよ。本物の霊を見るのは。

優香 ええ？

麗樹 元々靈感なんて全くなかったし、才能がなかったのよね。

優香 サギの才能はあるみたいね。

麗樹 仕方ないのよ。私だって生きていかなきゃならないんだから。

優香 でも、私は見えるんでしょう？

麗樹 おそらく波長が合うのね。何かがリンクしてるのよ。

優香 ま、何にしても私には助かったわ。ね、お願い、力を貸して。

麗樹 銀行には本当に三百万円入ってるんでしょうね。

優香 失礼ね、何で疑うのよ。

麗樹 幽霊なんて存在自体が怪しいものを話まで信じられるわけじゃないでしょう？

それはあんまりな発言じゃない？とにかく三百万円は本当よ。ただし、成功報酬。それでも嫌なら呪い殺すわよ。

分かったわよ。

圭太、おしほりを持つてくる。

圭太 アレ？大丈夫なんですか？

麗樹 え？ええ。霊との交信は精神力の消耗が激しいんです。たまにあることです。よかつたら、使つて下さい。

圭太、おしほりを渡す。

麗樹 ありがとうございます。

圭太 じゃ、救急車キャンセルしてきますね

圭太、再度上手へ去る

優香 やっぱり圭太には私が見えないか……。

麗樹 私も才能ない方だから人のこと言えないけど、アレはかなりニブいわね。と、なるとやっぱりあなたの協力が……。

麗樹　　優香、一瞬立ちくらみのような状態になる。
どうしたの？

優香　まったく、何なのかしら。幽霊もそれなりに不便ね。この世にとどまり続けることが出来ないのよ。存在がもの凄く不安定なの。

麗樹　　3要素の組み合わせが悪いのね、きつと。
優香　何、それ？

麗樹　幽霊つてのはね、いつ、どこでも存在できるわけじゃないの。地脈と月の満ち欠けと時間が複雑に絡み合ってるわけよ。3要素の組み合わせによっては存在できなかったり、逆に彼でも気づくぐらい強く存在することも出来るはずよ。

優香　さすが。知識だけはすごいじゃない。

麗樹　受け売りだから確かなことはわからないわよ。

優香　でも、そんなこと知っても何の解決にもならないわね。

麗樹、しばらく考えてカバンをあさる。

たしか、入れておいたと思うけど……………。

何？

麗樹、カバンから一枚のお札を出す。

麗樹　あつた。これなんだけど……………本当に効果あるかしら。

優香　何、そのお札？

私の師匠が書いてくれたお札なんだけどね。3要素をある程度安定させてくれる力があるらしいんだけど。

優香　え、本当？！

麗樹　3要素が下がりきってる時はダメよ？それ以外の時は、安定させることが出来るらしいけど、ただかこんな紙切れでねえ……………。

いいじゃない、ためし、ためし！！

……………じゃ、はがしちゃうといけないからこの裏に貼っておくわよ。

うん。

断つとくけど効果ないかもしれないからね。

うん。ためし、ためし。

麗樹、サイドボードの裏にお札を貼る。

ハイ。貼ったわよ。

……………お？お？

優香、自分の体を見る。

おお……。ホラッ……！

いや、ホラッって、見た目は何も変わってないから。

でも確かに安定した気がする。お師匠さん、凄いね。お師匠さんが来れば良かったのにな。

アンタもズバツと言っわね……………はい。

麗樹、手を出す。

何？

お札代。

優香

お金とるの?!

麗樹

当たり前でしょう。オプション料金よ、これは。

優香

アンタが書いたわけじゃないクセに。

麗樹

あ、そう。じゃあいいわよ剥がすから。

優香

分かったわよ。サイドボードのさっきとは反対側の方開けてみて。

麗樹、保険証書が入っていたのとは違う方を開ける。

優香

そこにアクアマリンが入ってるから。

麗樹

へえ。良い品じゃない。何?プレゼント?

優香

自分で買ったの。仕事頑張った自分へのご褒美にね。

麗樹

フーン。じゃ、これいただいとくわ。

優香

ちゃっかりしてるわね。

麗樹

私はお金に生きる女なのよ。でもま、あのお札一枚でこれもらっちゃ割が良すぎるかな。私は構わないけど。

優香

何?

麗樹

ま、今後は多少のことはこれに免じてやってあげるわよ。

優香

ありがと。大切にしておね。

麗樹

はいはい。

優香

あ、圭太が来る。いい?今までのこと全部なかったことにして、イチからちゃんとやってよ。

麗樹

はいはい。

圭太が入ってくる。

圭太

今、救急車止めてきましたけど、本当に大丈夫ですか?

麗樹

ええ。ご心配をおかけして申し訳ありません。

圭太

いえ、いいんですけど。

麗樹

それでは続きを……。

圭太

大丈夫ですか?

麗樹

大丈夫です。さ、座って下さい。

圭太

はあ……。

圭太、麗樹の正面に座る。優香は麗樹と圭太の間に立つ。

優香

はあ。やっぱり見えないか。お札貼ったからひよっとしたらって思ったけど。

麗樹

当たり前でしょ。アレはあくまで3要素を安定させるだけの力しかないの。

優香

ちえー。

圭太

……あの?

麗樹

いえ、コッチの話です。

圭太

はあ。

麗樹

えーと……何からお話すればいいかしら。まず……

優香

まず、これを返して。

優香、机の上の現金と時計を指さす。

麗樹

分かったわよ。あの、新井さん。

圭太 はい。

麗樹 これ、お返しします。

圭太 え？何ですか？

麗樹 説明すると長くなるので、とにかくお返しします。

圭太 でも、これがあると優香が苦しむんじゃない？

麗樹 苦しまなくなりました。

圭太 どうしてです？

麗樹 だから、話が長くなるんですって。

圭太 大丈夫です。キチンと聞きますから。

麗樹 だから、とにかくイチからやり直しの、いろいろあって

圭太 どういう意味ですか？

だから！いいから！イチからやり直し！！ね、分かった？！やり直しやり直し！！ね！？

圭太 ええ……はあ……。

麗樹 しぶしぶうなずく圭太。首をかしげる。

麗樹 しかし、本当に押しに弱い彼氏ね。

優香 ほつといてよ。

麗樹 じゃ。これ、お返しします。

机の上の現金と時計を押しつける麗樹。圭太は時計をサイドボードの上に置き、保険証書があった所に現金を置く。机に戻る圭太。

圭太 それでイチからやり直しというのは……。

ええ。まず、霊を私の体に落とすという方法はやめにします。先ほどのようなことのないように。

圭太 ええ。

嘘がうまいわね。

麗樹、キツと優香をにらむ。

えーと。新井さん、落ち着いて聞いて下さいね。

……はい。

彼女……優香さんはここにいます。

え？！ここにですか？

はい。見えないかもしれませんが、ここにいます。

優香が……。

はい。

圭太。

あの、それで……どんな感じですか？苦しんだりとか

あー、ないない。全然大丈夫。

ちよつと、そんなに軽く答えられないですよ。

心配させるよりマシでしょ。

麗樹先生、会話、できるんですか？優香と。

圭太。先生なんてつけることないわよ。こんな、なんちゃって霊媒師に。麗樹で十分よ、麗樹で。

麗樹 あんた、本当に失礼ね。．．．ええ、見ての通り出来ますよ。
圭太 あの、聞いてみてもらえますか、何で出てきたのか？
優香 え？
圭太 いや、変なイミじゃなくてですね。その．．．もし心残りがあるんだったり、苦しんでるんだったら、何でもしてやりたくて．．．きっと、僕に何か伝えたいことがあるんだと思うんです。
優香 圭太．．．。
麗樹 彼氏、あんたにゾッコンだね。
圭太 もしかしたら、寂しいから一緒に来てほしいのかなって思うんです。
優香 は？
圭太 でも、いいんです。優香が寂しいなら。一緒に行ってやってもいいかなって思うから。
優香 ちよっと何言ってるのよ。そんなこと思うわけじゃない。
麗樹 でもあの目はマジよ。
圭太 どうなんでしょう。優香、寂しがってますか？
優香 ねえ、言ってるよ。この馬鹿に。
麗樹 何て？
優香 何でもいいから、早く。
麗樹 この馬鹿！！
圭太 ええ？
優香 ちよっとどこを伝えてんのよ。

麗樹 何でもいいからって言うから。
優香 そんなこと思ってるわけじゃないでしょってことを伝えてって言うてるの！！
圭太 あの、馬鹿って．．．優香が言ってるんですか？
麗樹 そうよ。
優香 そうやってあのねえ。
麗樹 いいから、まかせて。（圭太に向き直って）いいですか？新井さんの彼女の優香さんはそのようなことをお考えになるような方ですか？
圭太 え？
麗樹 自らの寂しさの為に新井さんの死を望むような方でしたか？
圭太 え、いえ．．．。
麗樹 そのような考えは新井さん、アナタ自身の寂しさをまぎらわせている考えにすぎません。もつと悲しみを正面から受け止めることが彼女に対する何よりもの愛の証だと思いますが、違いますか？
圭太 そうですね．．．．．そうですね！！麗樹先生！！僕が間違ってた！！
優香 急にまともなことを言うのね。
麗樹 ありがたい説教は五万円となっております。
優香 そういふことかい。って、アンタも払おうとするな！
圭太、払おうとしている。
麗樹 冗談よ、冗談。で、何か伝えたいことがあるんじゃないの？彼氏に。
優香 ．．．うん．．．。

麗樹

何？どうしたのよ。

圭太

・・・あの、どうかしたんですか？

麗樹

わかりません。何か伝えたいことがあるようですが、急にだまってしまいました。

しばらく優香を見ている麗樹。何か考え事をしている優香。

優香

・・・ねえ。

麗樹

何？

優香

圭太は絶対に私のことって見えないのかな？声も聞こえないのかな？

麗樹

そりゃ、厳密に言えば絶対ってことはないだろうけど・・・。

優香

本当！？私ね、やっぱり自分の口から伝えたい。ちゃんと圭太と向き合った状態で伝えたい

麗樹

気持ちに分かるけど、どうかと思うよ。

優香

どうして？

麗樹

だって、アンタ、どうしたって死んじまってるんだよ？姿や声を確認してせっかく会えた後でアンタはあ

優香

の世へいつちまうんだ。彼氏は2度もアンタとつらい別れを経験しなきゃいけない。行っちまう人は気軽

麗樹

なもんさ。残された方はたまったもんじゃないと思うけど。

優香

・・・そっか・・・。

麗樹

それにね、霊を見れるようになるには相当な訓練が必要だよ。元々そういう才能を持っていれば話は別だけ

優香

ど、普通の人間がその能力を発揮できるようになるには、それこそ悟りをひらける位、自己を高めなきゃ

麗樹

ならないんだよ。

優香

悟り・・・。

麗樹

それでも分からないよ。確実なことは言えないね。残酷な言い方になるけど、それはアンタのわがままっ

優香

てモンだね。私を通じて伝えるだけにしなよ。

麗樹

・・・うん・・・。

圭太

あの。

麗樹

何？

圭太

今の話って、ひょっとして僕が優香の姿が見えるようになったり、声が聞こえるようになったりって、そ

麗樹

ういう話ですか？

圭太

そうよ。現実的じゃないけどね。

麗樹

あの、それ・・・挑戦してみたいです。

圭太

ええ！？

麗樹

頑張りますから、やらせて下さい。

圭太

人の話聞いてた？肉体的にも精神的にも鍛え直さないといけないのよ。

麗樹

頑張ります。

圭太

仕事は？

麗樹

仕事も頑張ります。

圭太

そんなの無理に決まってるでしょ。何の仕事してるのか知らないけど、両方とも中途半端になるのがオチ

麗樹

よ。鍛え直すってのはそんなに甘いものじゃないの。

圭太

でも、長い目で見てもらって、時間をかけて鍛えていけば必ずいけると思っんですけど、ダメですか？

麗樹

麗樹、少しため息をついて

麗樹　　そうか、基本的な知識がないからそんなこと言ってるのね。
圭太　　・・・どういうことですか？

麗樹　　死んだものはね、普通、死んだらその場であの世へ行くわけ。悪人も普通の人も、雀もアリンこも全部、平等にあの世へ行くの。
圭太　　はい。

麗樹　　で、まれにこの子みたいは何らかの事情で精神だけこの世に残ってしまう場合があるのよ。恨みでも、心残りでも、後悔でも、何でもいいから、とにかく強い思いがあると成仏できずに、こつなるわけ。
優香　　じゃ、今の私は精神のカタマリってこと？

麗樹　　そう。で、ここからが問題なんだけど、本来であればその場で成仏できたものを、自らの精神力で無理矢理この世にとどまっているの、つまり自然の摂理に逆らっていることになるわけ。そんな状態がい
29 つまでも持続できるわけがないでしょう？

圭太　　期限があるってことですか？

麗樹　　49日です。

圭太　　49日？ たった！？

麗樹　　でももう10日たっているわけですから、残り39日ね。限られた時間の中で肉体も精神も鍛え直して、さらに仕事も今まで通りにやる？無理だと思っけど？

優香　　・・・ねえ、期限の49日を過ぎたら私はどうなるの？

麗樹　　それは安心して、普通に成仏できるわよ。ただ・・・。

優香　　ただ？

麗樹　　それでも無理にとどまろうとしたり、成仏するその時に精神力が消耗していたりしたら、あなたの存在が消滅するわね。消滅したらもう本当の終わり。二度と生まれ変わることはないわ。

優香　　生まれ変わりって本当にあるんだ・・・。

麗樹　　だから、全部師匠の受け売りだったの。ただ、アンタの存在が本当にある以上、師匠の言っていることが正しいんでしょうね。

優香　　お札の効果もバッチリだしね。

　　考えている圭太を見て、麗樹が声をかける。

麗樹　　考えても仕方がないでしょう。どうしても彼女の姿や声を確認したいなら仕事はあきらめるべきです。

圭太　　でも、それは・・・。

麗樹　　彼女が大切なのでしょうか？

圭太　　大切だからです。大切だからこそ、今やっている仕事だけはやりとげたいんです。

麗樹　　・・・どうということ？

優香　　私と圭太は同じ職場で働いてて、今、同じプロジェクトの仕事してたの。

麗樹　　何の仕事？

優香　　広告代理店。小さな会社んだけど営業に力があって、取ってくる案件は大手企業の広告だったりしてね、CMの制作からチラシ、ポスターのデザインまで請け負ってて、企業からの要望によっては新しいサービスのネタまで考えることもあるわね。

麗樹　　ふーん。で、二人でやってた仕事が終わってないからキチンとあげたい、と。

優香　　多分。でも、私の出番なんかまだまだ先だったんだけどね。私、プレゼンターだから。

「ん？」という顔をする麗樹。

優香 圭太の仕事は、プランナー。広告のキャッチコピーとか、新しいサービスとか、考えるのが仕事。私も手伝うけど、圭太のアイデアをまとめたり、方向性を広げたりする位かな。あくまでも私の本来の仕事は、圭太が作った広告を発注元の企業にプレゼンする役なの。

麗樹 なるほどね。今となっては二人にとつての最後の共同作業か……。アンタにとつても心残りなの？ そりゃあ、ちよつとわね。ま、プレゼンターの私がこんだから、誰か他の人に頼むしかないけど。

優香 厳しいってことは分かっています……。いや、分かってないのかもしれないですけど、やらせてもらえませんか。

圭太 二兎を追うものは何とやらって言いますでしょ。

麗樹 頑張りますから。

圭太 プロスポーツ選手並みに体を鍛えるのですよ？

麗樹 はい。

麗樹 精神の修行だつて相当きついですよ。

圭太 はい。

麗樹 どんなに頑張つても最終的には全部無駄になるかもしれません。

圭太 はい。

麗樹 それでも報酬はいただきますよ。

圭太 はい。

麗樹 本当にいいんですね？

圭太 はい。

麗樹 本っ当にいいんですね？

圭太 頑張りますから！

麗樹、呆れ顔で圭太を見る。そして優香の方へ顔を向ける。

優香 お願ひ！

麗樹 ・・分かったわよ！請け負うわよ。二人してそんな目で見るのやめてよね！

圭太 ありがとうございます！

優香 ありがと！

麗樹 まったく・・どんな損得勘定すればそんな答えがでるのよ。馬鹿ねえ。

圭太 ・・そうなんです。僕、馬鹿なんです。

麗樹 ちよつと、マジになんないでよ。そういう意味じゃないって。

圭太 いえ、馬鹿なんです。馬鹿だからその穴埋めがしたいんです。

麗樹 そうなの？よく分からないけど、いい？時間がないから今日から早速特訓だからね！

圭太 はい！

麗樹 それから、アンタも。

優香 え？

麗樹 え、じゃないわよ。アンタも特訓するんだからね！

優香 私も？私は何をすればいいの？

麗樹 さっきも言ったけど、アンタの体は精神体なの。実体がないのよ。

優香

うん。

麗樹

だったら鍛えるのはその精神力しかないでしょ？精神を鍛えに鍛えまくって実体に近付くのよ。簡単に言うと、優香は修行によつて人間に近付くの。分かる？

優香

分かる。頑張る。何すればいいか分かんないけど。

麗樹

早急に特訓のスケジュール表を作るわ。私も師匠から教えてもらったノートをもう一度確認しないとね。

優香

うん。

麗樹

写真たてを倒したのはあんたのその手じゃないでしょ？

優香

うん。倒れるつて念じたら勝手に倒れた。

麗樹

俗に言うポルターガイスト現象よ。でも、あくまでそれは念の力。そうじゃなくて、その手で物体をつかめるようにならないと。

優香、自分の手を見る。

優香

そうなんだよね・・・この手じゃ何も触れないんだよね・・・私、幽霊なんだよね・・・。

麗樹

はいはい。そこで現実に戻っても仕方ないでしょ？想い残しを払うためには、やれることをやらないと！

優香

うん、そうだよな！

麗樹

じゃ、二人とも、あと残り三十九日だからね！へばってる暇も、落ち込んでる暇もないよ！

二人

はい！

麗樹

頑張るぞー！

二人

オー！

麗樹

はい。じゃあ中途半端に盛り上がったところで、まずは新井さん、筋トレからいくわよ！

圭太

はい！

麗樹

まずはスクワットを百回！家だって体だって、土台がしっかりしてないと駄目なのよ！

圭太

はい！頑張ります！

圭太、その場でスクワットを始める。

明かり、麗樹と優香のみになる。

ちよつと、ちよつと、ちよつと。優香。

何？

何じゃないわよ。彼氏、ラブラブ過ぎない？アンタ死んだとき、相当泣いたんじゃない？

・・・まあ、泣いてたわね。

でしょー。女冥利に尽きるつてやつか？このお！

えへへへへ・・・まあね。

何？付き合つてどのくらいだったの？

もうすぐ三年になるかな。うん。九月で三年だ。

三年！？三年でこのラブラブさ加減なら、告白したころなんてそりや凄かったでしょ！？

うっん。違つよ。

違つて何が？意外と地味だったつてこと？

そうじゃなくつて、告白したのは私の方から。

は？

最初に好きになったのは私なの。

麗樹 ええ！？あの何の特徴もない、どこにでもいそうな上に、押しに弱い男のどこが気に入ったの？気に入り

どころが全然わかんない。

ちょっと。

優香 全然わかんない。

麗樹 何で二回言うのよ？

だってわかんないんだもん。

優香 圭太は優しいし、あれで意外と男気があるんだから。分かりにくいけどね……。

ふん。

麗樹 興味無いなら振らないでよ。

いやいや、ま、いいんじゃない？人が人を好きになるきっかけなんて、ちょっとした出来事だった
りするわけだし。

優香 うん。そうだね。私が圭太を好きになったきっかけも本当にちょっとした出来事ことだった。

音楽・ENYA「Fairy Tale」

上手のプレゼン用の台に圭太がいて、書類を整えている。

優香、圭太に近付く。

優香 おはようございます。

圭太 ……おはようございます。

優香 あの、今日のプレゼンターの川島です。

圭太 ああ……新しく入った方ですか？

優香 はい。

圭太 プランナーの新井です。

優香 よろしく願います。

圭太 あ、よろしく願います。今日の原稿です。

優香 ありがとうございます。

圭太 一度目を通しておいたほうがいいですよ。

優香 はい。

優香しかし、原稿を見ず、うつむいている。

圭太 川島さん？

優香 はい。

圭太 原稿。目を通しておいた方がいいですよ。時間もあまりありませんし。

優香 はい……。

圭太 ……川島さん、緊張されてます？

優香 はい……その……初めてなんです。プレゼンするのが。今日が。

圭太 え？初めて？

優香 はい。

圭太 初めてなのいきなりぶつつけ本番でプレゼンするんですか？

優香 代役なんです。本当は上司の神田さんがやることになってたんですけど、風邪で入院してしまったんです。

他の先輩は他のプレゼンで出てしまっていて……。

圭太 ああ、プレゼンターは人手不足ですもんね。

優香 はい。それで急遽私がやることになりました。申し訳ありません！

圭太 いや、川島さん、まだ何もしてないから。

優香 でも私失敗するに決まってるんです。私なんて何やったって駄目に決まってるんです。

圭太 あの、川島さん？

優香 幼稚園のお遊戯の時だって失敗したんです。

圭太 川島さんって。

優香 台詞一つしかなかったんですよ！？忘れもしないナマハゲの役。「悪い子はいねがー！？」って台詞をかんじやって「悪い子はビネガー」って言っちゃったんです。「ビネガー」って何よ「ビネガー」って！？

圭太 うん。聞こう。まず人の話を聞こう。

優香 もっとちっちゃい頃なんかでもすね！！

圭太 さかのぼり過ぎ。川島さん落ち着いて。

優香 分かってるんですけど……。私の失敗のせいでプランナーさんたちが連日徹夜して考えた広告のプランを駄目にしてしまうかもと思うと、落ち着いてなんかいられませんよ。

圭太 いいから。僕の話聞いてもらえますか？多分、かなり気が楽になるはずですよ。

優香 ……はい？……なんででしょう？

圭太 まずですね、プレゼンターの方が僕等のことを考えてくれてプレゼンしてくれるのは珍しいですよ。僕、今とつても嬉しいですよ。

優香 そうですか？

圭太 はい。だって大抵の人はプレゼン後にクライアントからOKもらえなかったら、間違いなくプランナーの

せいにするんです。そのくせ、クライアントから褒められると自分の手柄にするんです。

優香 そうなんですか？

圭太 そうなんです。ですから川島さんみたいにプランナーの努力を認めてくれる方にやってもらえるのは嬉しいです。是非、川島さんにプレゼンしてもらいたいです。

優香 でも

圭太 それと、その調子では聞いてらっしゃらないようですからお伝えしておきますけど、今日のプレゼン、OKもらえなくても大丈夫なんですよ。

優香 え、本当ですか？

圭太 はい。実は既にクライアントの現場サイドからはおおよその部分でOKをもらってまして、実際今日のプレゼンは形式上のものだったりするんですよ。ですからミスろつがかもつが全然大丈夫ですよ。とりあえず最後までプレゼンしてもらえればね。

優香 そうなんですか。

圭太 そうなんです。

優香 あ、だから私に回ってきたんですね？

圭太 だと思いますよ。良い経験させようってことじゃないですか？

優香 なんだ、そうなんですか！。

圭太 はい。気が楽になりましたでしょう？

優香 おかげさまで。ありがとうございます。

圭太 あとはですね、プレゼン始まったらクライアントなんてカボチャだと思えばいいんですよ。

優香 カボチャ？

圭太 カボチャ。

優香 カボチャ。

圭太 ……それじゃ、頑張ってください。

優香 はい。お疲れ様です。

圭太、明かりから外れて、再びスクワットを始める。

何、それが始めての出会いってやつ？

麗樹 うん。

麗樹 で、どうだったの、プレゼンの方は。

優香 まあ、可もなく不可もなくって感じだった。ミスがなかったわけじゃないけど、大したミスじゃな

39

かったし。初めての仕事にしては充分合格点だったんじゃないかな。クライアントからOKもらえたし。

新井さんからの前情報のおかげ？

麗樹 あれねー、圭太の嘘だったの。

優香 嘘？

麗樹 かなり後で知ったんだけど、私を落ち着かせる為の嘘だったのよ。おまけに本当は圭太自身の昇進がかか

ってたプランだったから、絶対成功させたかったはずなのに。

優香 で、スキュンときてしまった、と。

えへへへへ。

麗樹 なるほどねー。で、告白は？

優香 あの一件があつてから縁があつたのか、圭太のプランを専属でプレゼンするようになって、半年位かなあ、一緒に仕事するようになったのね。

麗樹 ふんふん。

優香 その日は人手が足りなくて、プレゼンターの私と圭太の二人だけだったの。レンタルスペースの貸しプレゼンルームでプレゼンして…終わった後二人で片付けしてる時に、これはチャンス！って思って、プレゼンすることにしたの。

プレゼン？

音楽・AIKO「花火」

圭太、スクワットをやめて片付けをするマイムをする。

優香はプレゼン台へ立つ。

優香 えー、只今より緊急プレゼンテーションを行います。お席へどうぞ。

圭太、片付けの手を止め、優香を見る。

優香 お席へどうぞ。

圭太 何、何？

圭太、促されるままに着席する。

優香 えー、それではこれよりプレゼンター川島による、川島優香の半生および生態系に関するプレゼンテーションを行いたいと思います。

よっ！

圭太

圭太、パチパチパチと拍手する。

壇上の人となっております川島優香ですが、誕生日が一九七九年三月十九日生まれ。現在二十八歳です。この世に生を受けたのは東京の三鷹ですが、父親の仕事の関係で九州は福岡へ引っ越すことになりました。優香は自然に恵まれた環境で中学生まで生活し、その後再び父親の勤務で東京へ戻ってきました。ちなみに父親はある商社の営業マンで母親は専業主婦。両親共に健在でございます。話を戻しまして、優香は東京で高校・大学へと進みます。高校では合唱部に入り、三年間部活づけの毎日を送ります。割と実力のある学校だったので、コンクールでは関東大会までいきました。大学では高校の頃の先輩に誘われて女だけのバンドを組みました。ライブも何度かやりましたがあまり人気があるとは言いがたく、四年間の間に何人も何人もメンバーが入れ替わり、次第に自然消滅したのです。ちなみに私はボーカルでした。結局私は人前に出るのが好きなんだと思い、この仕事を選びました。

41

続きまして、川島優香の生態系に関してのプレゼンに移りたいと思います。血液型はB型で思い込みが激しいのが特徴です。意外にも料理が得意だという女性的な一面もあり、特に肉じゃが・金平ゴボウ・ほうれん草のおひたし等はお店に出しても恥ずかしくないくらい自信をもっています。えー、このレパトリーからも分かるように和食派です。そのほか掃除・洗濯などは自慢できる程ではありませんが人並みにはこなせます。私、結構尽くします。ここ大事です。結構、尽くします。弱点はありえないくらい低血圧なので、朝が弱いことです。ですので朝にお弁当を作るとかは無理です。また「俺、明日朝早いから起こして」などのシチュエーションが発生した場合、まず役に立ちません。逆に起こしていただく流れになるかと思えます。が、結構尽くします。スリーサイズは上から八八・五十・八八のナイスバディ・・・だったらいいなあでございます。女はスタイルではございません。スタイルとはやがて衰えていくもの。女

は愛嬌。愛嬌なのでございます。さて、最後になりましたが、川島優香二十八歳。女盛りの二十八歳。只今フリーでございます。ぶっちゃけ彼氏募集中でございます。それでは数に限りがございますので、お早目のご検討、心よりお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

優香、ペコリとお辞儀する。立ち上がり拍手を送る圭太。

ブラボー！ブラボー！

ありがとうございます。

川島さん、僕と同じ年だったんですね。

はい。知りませんでした？

はい。下だと思ってたんで。やばいな。何か今まで失礼なことかしちゃったりしてませんかね。

大丈夫ですよ。それにいいんじゃないですか？職場の後輩には違いないますから。

いやいや・・・今のってセルフプレゼンですよ？

はい。自分で自分をプレゼンするってやつです。プレゼンターの基礎です。新人研修の時にもやりました。面白かったですよ。さすが、今では川島さんはプレゼンター班のエースですからね。

やめてくださいよ。

いやいや、皆言ってますって。

そうですか？ありがとうございます。

いやー、良いものを見せてもらいましたよ。じゃ、これ片付けちゃいましょうか。

あの、もしもし、新井さん？

はい。

42

優香 いや、あの・・・で、どうですか？

圭太 ……ええ、面白かったですよ。

優香 そうじゃなくてですね、今のプレゼンの返事というか、思ったことというか……。

圭太 思ったことですか？……そうですね、川島さんの彼氏になれる人は羨ましいなと思いました。

優香 本当ですか！？

圭太 はい。フリーなのが信じられません。

優香 本当ですか！？

圭太 はい。あ、そうだ！川島さんにも好きな人がいたら、セルフプレゼンでアピールして告白すればいいじゃないですか！！

麗樹、回想に割って入る。圭太、ストップモーション。

麗樹 ええ〜！？

優香 ええ〜でしょ！？

麗樹 ニッブ〜！！

優香 ニッブ〜でしょ！？

麗樹 しかも今、さも良いアイデアが浮かびました的に発言してたでしょ。お前がそれをやられてるんだっつーの。

優香 圭太はね〜、感性は人一倍鋭いんだけど、情緒が人三倍劣ってるのよね。

麗樹 いや、ダメじゃんそれ。

優香 苦労したわ。

麗樹

優香

麗樹 で、どうしたのよ。ここまでニブちゃん相手だと、ビシッとストレートに言わないと分からないんじゃない？

優香 言ってやったわよ、ビシッと！

麗樹 へえ。何て？

優香、圭太に向かって

優香 そうですね〜！

一瞬会話をする二人。

麗樹 ダメじゃん！

優香 私もパニクってたのよね〜。

麗樹 あんたがそこで賛同しちゃったら、本当に何の脈絡もなくプレゼン始めた不思議ちゃんになっちゃうでしょ。

優香 そうなのよ。

麗樹 「そうなのよ」じゃないわよ。で、どうしたのよ。

優香 だから言ったでしょ。告白はプレゼンをしたって。

優香、再びプレゼン台前に立つ。

優香 新井さんに良いアイデアをもらったんで、早速使わせてもらいます。

圭太 え？

優香 セルフプレゼンです。川島優香二八歳。料理が得意です。その他の家事はそこそこやれます。一步引いて

男を立てるタイプです。意外とユーモアもあります。

圭太 川島さん……。

圭太

優香 自分で言うのもなんですが、いい女だと思います。
圭太 ……はい。
優香 なんと言っても、結構、尽くします。
圭太 はい。
優香 結構
圭太 尽くすんですよ？
優香 はい。
圭太 川島さん。
優香 ……はい。
圭太 僕もね、結構、尽くすんです。
優香 尽くすんですか？
圭太 尽くすんです。となると、尽くして、尽くされるから……。
優香 ラブラブですね。
圭太 ラブラブですね。
優香 うれしいですね。
圭太 うれしいですね。
優香 嬉し過ぎますね。どうしましょう。
圭太 どうしましょう。
優香 大声で叫んじゃいましょうか？

圭太 叫んじゃいましょう。でも、なんて？
優香 ここはまあ……ベタに、やったーって。
圭太 いいですよ。じゃ、いつせーので、やりましょうか。
二人 いっせーのーで！やったー！！
舞台明るく。

音楽・オレンジレンジ「以心伝心」
二人、曲に合わせてダンス。

間奏中に台詞が入る。会話するのは麗樹と優香の二人。二人が会話をしている間はダンスのような筋
トレをする圭太。サビの部分では再び圭太と優香のダンス。

麗樹 へえ、なかなかドラマチックじゃない。
優香 でしょ？
麗樹 確かに尽くしてるもんね。
優香 でもねー。圭太の尽くし方って、いまいち分かりづらかったのよね。
麗樹 ああ。保険の受取人を優香にしたりね。
優香 自分にもしものことがあつたらって、考えてのことなんだろうけど、もう少しストレートに喜べることを
して欲しかった気はする。
麗樹 今はかなりストレートに尽くしてるわよ？
優香 うん。だから今はすごくうれしい。
麗樹 はいはい。ごちそうさま。

麗樹 再び圭太と優香のダンス。間奏になったとき、今度は特訓のシーンになる。
はい。今度は腕立て！

圭太、腕立てをする。

麗樹 肘を曲げてテンポよく！

優香 がんばれ！

圭太、力尽きてつぶれる。

麗樹 今度は腹筋！

圭太、腹筋をする。

麗樹 勢いつけて、テンポよく！

優香 ファイト！

圭太、力尽きてダウンする。

麗樹 ラストは背筋！

圭太、背筋を始める。

麗樹 思いつき反って、テンポよく！

優香 がんばれ！って、あら？

圭太、ぐったりしている。

優香 大変です！意識がありません！体力なさすぎです！

二人 ……ダメじゃん！！

優香と麗樹、圭太を蹴っ飛ばす。勢いで起き上がり、再びダンス。

ラスト、圭太と優香は決めポーズ。途中から白々と見ていた麗樹。

麗樹 ……気は済んだ？

慌てて離れる二人。

圭太 失礼しました！

麗樹 とにかく！あなたは体力なさすぎ！あんなだけの大口たたいたんだからしっかりしなさいよ！

圭太 はい！

麗樹 とりあえず最初の一週間は筋トレ一本でいくわよ！覚悟してね！

圭太 はい！！

麗樹 あんなの方の特訓も明日メニュー作ってくるから。

優香 うん。よろしく。

麗樹 ……まったく、先が思いやられるわ。じゃ、また明日。

麗樹、カバンを持って去ろうとする。

優香 あ、ねえ、麗樹。

麗樹 ……何？

優香 ありがとう。

麗樹 金よ。お金のため。

優香 それでも、ありがとう。

麗樹 本当におめでたいカップルだね。……また明日。

麗樹去る。

圭太 あ、今後ともよろしく願います。

圭太、麗樹を玄関まで見送る

優香 ありがとうだよ。だって希望が出来たんだから。

優香、サイドボードの写真立てを見る。

暗転（もしくは通常の照明とは違う照明を組む）

圭太が入ってくる。

圭太 ゴミ捨ててきたよ。

優香 ありがと。

圭太 明日燃えるゴミの日でいいんだよね？

優香 ん？

圭太 いや、缶・瓶が結構捨ててあったからさ。

優香 このマンションの人って多いよね。

圭太 多いね。

優香 圭太はどうする？時間あるならDVD見ちゃう？明日の朝には返さないでしょ？

圭太 ああ・・・仕事たまってるからいいや。優香見といって。

優香 手伝おうか？

圭太 ネットはもう出来てるから、あとはまとめるだけ。

優香 ふーん。それではお言葉に甘えさせていただきます。

圭太、机に座り仕事を始める。優香はDVDを取り出しセットする。

圭太 今日の鮭のムニエル美味しかったよ。

優香 そ？

圭太 優香、洋食もイけるね。

優香 フフン！努力してますから。

圭太 じゃあさ、ドリアって作れる？

優香 うん。

圭太 マジで？明日作れる？

優香 うん。明日は早く帰ってこれるから作れるけど・・・ドリア好きなの？

圭太 大好きです。

優香 分かった。じゃ、明日はドリアね。

圭太 やった！！ドリヤー！！ってね。

優香、普通にDVDを操作している。

圭太・・・シカト？

圭太、普通に仕事を始める。DVDを見始める優香。TVより音声が聞こえてくる。漫才特集のDVDらしい。観客の笑い声などが聞こえる。暫くして圭太が溜息をつく。

優香 あ、ゴメン。うるさい？

圭太 違う違う。考え事。

優香 このままで平気？気にならない？

圭太 大丈夫。集中してるから。

再び仕事をしだす圭太。DVDを見る優香。暫くして・・・
優香 ふふ・・・

ピクツと体を起こす圭太。が、再び仕事をする。暫くして・・・
優香 はははは。

ピクツと体を起こす圭太。が、再び仕事をする。暫くして・・・
優香 あはははは！！

圭太 もしもーし！！
優香 何？やっぱ気になる？

圭太 TVが気になるっていうか、優香が気になるっていうか・・・
優香 ヘッドホンつけるね。

圭太 助かります。
優香 いえいえ。

再び圭太は仕事。優香はDVDを見る。暫くして。
優香 ふふ・・・。何でやねん！

ピクツと体を起こす圭太。が、再び仕事をする。暫くして・・・
優香 あはははは！ありえないって！

ピクツと体を起こす圭太。が、今度はジッと優香を見ている。
優香 あはははは！まじウケるんですけど！まじウケるんですけど！

圭太、優香の後ろに回ってチョークスリーパーをかける。

優香 ギブギブギブ！

チョークスリーパーを解く圭太。優香はヘッドホンをはずす。
優香 何？

音声無いほうがね、倍気になるの。もうね、いろんな想像が働いちゃって。
圭太 だからやっぱり手伝わって。ちゃんと終わらせて一緒に見ようよ。

圭太 ・・・そだね。お願いします。
優香 ヘイハイ。

優香、ヘッドホンをしまいDVDを消す。二人、机へ移動する。と、ピンポンという呼び鈴と同時に
通常の照明に戻る。

圭太 はい。

圭太のみ玄関へ

麗樹 新井さんは今日も休みなんですか？

圭太 僕はプランナーですからね。広告の基本ラインが出来るまでは自宅で仕事することを認められてるんです。
麗樹 羨ましいいわね。おはよう。

優香 おはよ。

麗樹 これ、優香の特訓スケジュールね。この壁に貼っとくから。ちょっと手伝わってもらえる？

圭太、手伝って壁に優香のスケジュールを貼る。優香は後ろで内容を見ている。

優香 禅？禅って座禅のこと？

麗樹 そう。その禅。

優香　だって、メニューは禅ばかりだよ？

麗樹　うん。優香が鍛えなきゃいけないのは精神力だけだからね。師匠のノートにも精神力を鍛えるには禅が一番て書いてあったから。

優香　ふん。

麗樹　じゃ早速、新井さんは筋トレを始めて。とりあえず腕立て・腹筋・背筋を五十回ずつ三セット。プラススクワット二百回を三セットね。

圭太　マジですか？

麗樹　マジです。で、優香はまず聞き込みするから。

優香　聞き込み？

麗樹　うん。あ、これは新井さんも聞いておいて。

圭太、腕立てをやめて、麗樹の方へ行く。麗樹、カバンからノートを取り出してパラパラとめく

53

麗樹　まず、今回の霊能力のない人間が、心身を極限まで高めて霊と交信する呪術を現実見（うつしみ）って言うのね。

優香　うつしみ……。

麗樹　“げんじつ”に“みる”と書いて“うつしみ”。これは誰でもできるわけじゃなくて、肉体的にも、精神的にも悟りに近い状態まで高められた人しか出来ないの。だから、新井さんには筋トレの他に追々禅もやってみようから。ここまではOKね？

圭太　はい。

麗樹　今回、49日の期限までに現実見に2回チャレンジしようと思ってるの。
ほお。

麗樹　1回目は周期的に3要素が強い時。それであれば特訓の成果がそんなになくてもイけるかもしれないから。なるほど。

麗樹　（圭太に）ちなみに、3要素っていうのは、地脈と月の満ち欠けと時間の絡み合いのことね。優香には説明しといたから、新井さんはこれ読んでいて。

麗樹、圭太にコピー用紙を渡す。

ありがとうございます。

圭太　もう1回は？

麗樹　もう1回は単純に49日目ギリギリまで特訓して現実見に挑むだけよ。で、優香が死んじやった時間や状況を詳しく聞いておかないと、正確な3要素の周期や49日のリミットが計算できないってわけ。

54

優香　了解。

麗樹　じゃ、新井さんは筋トレを続けて。

圭太　はい。

圭太、筋トレを始める。優香と麗樹はちゃぶ台の所に座る。

麗樹　あんまり思いたくないことかもしれないけど……。状況から教えて。

優香　うん……。あの日は受けていた広告のプレゼンがうまくいって、圭太とお祝いすることになってたの。

圭太は何かプレゼント買ってくれるって言ってたから、私は料理を頑張るうかなあって、デパートに寄っ

たのね。結構買い込んだじゃって、両手に大荷物でさ。．．．．．遅くなっちゃったんで、急いで帰らなきゃって思ってたら急に天気が悪くなつて夕立ち。ヤバイなあって思つて、圭太に連絡しとこうとケータイ出してゐる時にキキィって、凄いい音がして。

麗樹

優香

うん。雨で滑っちゃったみたい。交差点で信号待ちしてる私の所に凄いい勢いで曲がってくるんだもん。ま、信号待ちしてたのが私だけだったのが不幸中の幸いというか、不運極まりつていうか．．．。車と正面衝突して、多分、十メートルくらい飛んだんじゃないかな。「あ、私、飛んでる」って思ったもん。

麗樹

優香

別に自分の死の状況を面白おかしく話さなくてもいいのよ。で、時間は覚えてる？

麗樹

18時47分。丁度ケータイ出した時だから携帯の時計で確認してるんで正確よ。

優香

それは助かるわね。〇す。分かった。明日までに計算しておくわ。

55

圭太、疲れてゼーハーゼーハーしている。

麗樹

本っ当に体力ないわね、アンタ。さ、優香も特訓始めるわよ。ソコに座つて。

優香

優香、ちやぶ台より少し前に座る。

麗樹

座り方つて、胡坐みたいなあーゆー感じでいいの？

別に座り方に指定はないけど．．．。様は精神集中が目的だからね。とは言つても、カタチから入るのもアリか。

優香、胡坐をかいて座る。麗樹、カバンから入魂棒を出す。優香慌てて、

優香

ちよ、ちよつと、何それ？

入魂棒よ。アンタの精神の乱れを感じたらこれでバシッといくわよ。

麗樹

優香

バシッつて、私、精神体よ？

麗樹

大丈夫。師匠にもらったお札付きのやつだからアンタにも効くつて．．．。試してみる？

優香

いや、いい．．．。

麗樹

じゃ、座つて。

優香、入魂棒を気にしながら座る。麗樹、ノートを見ながら、

麗樹

禅の基本は精神力を高めること。集中力を養ふことよ。えーと、まずは頭を空っぽにすることから始めましょうか。

優香

頭を空っぽに？

麗樹

そ。無よ。無の境地にたどり着くのよ。

優香

いきなりそれは難しくない？

麗樹

知らないわよ。だつてそう書いてあるんだから。さ、チャレンジ、チャレンジ。まずは心を楽に．．．。

優香

心を楽につて、それ持つてる人が後ろで立つてたら楽にできるわけないでしょ。

麗樹

はい。うるさい、うるさい。とにかくやらなきゃ始まらないんだから。

優香

わかつたわよ、やるわよ。

麗樹

優香、目を閉じて大きく深呼吸。吸つて．．．吐いて．．．。麗樹、いきなりバシッ！

優香

いったーい。何すんのよ！

麗樹

今、邪念が見えたの。

優香

えー？

56

麗樹

はい。続けて。

優香

優香、目を閉じて集中しようと……麗樹、バシッ！
いったーい！

麗樹

ダメよ。邪念を払わなきゃ。

優香

まだ集中してないっての！早いわよ！

麗樹

あら、そう？

優香

まったく。

優香

優香、再び目を閉じて集中する。暫くして麗樹、バシッ！
いったー！……って、何で？

麗樹

今余計なこと考えたでしょ？

優香

考えてないわよ。

麗樹

考えた。

優香

考えてないって。本人が言ってるんだから。

麗樹

無意識に考えちゃったのね。だから自分では分からないのよ。

優香

麗樹には分かるの？

麗樹

分かるの。当然じゃない。

優香

まったく。

優香

優香、再び目を閉じる。が、麗樹、バシッ！
いったー……。

麗樹

今、嘘付けて思ったでしょ。

優香

うん。ごめん、今は普通に思った。

麗樹

あのねえ、認めてないで早く集中しなさい。

優香

はーい。

麗樹

優香、目を閉じて集中しようとする。麗樹、バシッ！

麗樹

今、コイツ、ひよっとして叩きたいだけじゃないのと思ったでしょ。

優香

思ってないわよ！いったーい。

麗樹

ごめん。今は叩きたかっただけ。

優香

あのねえ……人の頭で遊ばないでくれる？

麗樹

圭太、ゼーハゼーハーしている。

麗樹

本っ当に体力ないわね、アンタ。さ、もう遊ばないから本気で特訓するわよ。

優香

望むところよ。

麗樹

新井さんも気合入れ直して。

圭太

おす！

麗樹

圭太、再び筋トレを始める。

麗樹

じゃあ集中いくわよ！よいい、スタート！

優香

優香、目をつぶり、集中しだす。麗樹は優香の後ろを左右に移動する。圭太はひたすら筋トレ。

優香

そのままで暫く時間が過ぎる。

優香

ね、ごめん。麗樹、あのさあ。

麗樹 え？

優香 本気で特訓始めたらかのままだよね？

麗樹 ……そうね。

優香 こつからは何も生まれないよね？

麗樹 ……そうね。でも大丈夫。そんなに後続かないから。

優香 何で？

圭太、腕立てで体を起こそうとするが、ベチャツとつぶれる。

麗樹 ほらね？

優香 圭太……。

暗転。

過去バージョンの照明。舞台上には圭太のみ。机で仕事をしている。

上手から優香の声のみが聞こえる。

優香 先上がったよー。

圭太 うん。

優香 圭太も直ぐ入る？

圭太 もうちよつとかかりそう。

優香 まだ仕事？

圭太 なかなかいいアイデア浮かばなくてね。

優香 いい湯だよ？

圭太 うん。もうちよつとしたら入る。

優香、返事がない。

………？もうちよつとしたら入るから。

返事がない。

圭太 聞こえてる？もうちよつとしたら入るね。

返事がない。上手の方を見て少し席を立つ。今までよりも大きい声で、

圭太 もう少し……。

言いかけたタイミングで顔にパツクをした優香が入ってくる。

優香 何？

うわっ！？

優香 いやー、いい湯だった。……何、どうしたの？

圭太 それはこつちのセリフだよ。どうしたの？

優香 あ、これ？パツクよパツク。

圭太 いや、パツクは分かるけど、今時そんなベタなパツクしてる人いる？

優香 いやねー。これ最新の昆布パツクよ。

圭太 昆布パツク？

そ。肌にいらしいのよー。

優香 ……さては！？

圭太、バツと近くにあつた雑誌を見る。

圭太 あった！「昆布特集！美肌を得るために昆布のエキスを吸いつくせ！」コレ見たんだろ！？

優香 あ、バレた？

圭太 優香さあ、自分も広告業界の人間なんだから振り回されないでよ。何でもかんでもホイホイ乗っかるの止めた方がいいと思うけど。

優香 何で。

圭太 こんな特集なんてね、モテない負け組の女達が、妄想爆発で考えた偏見丸出しの記事なんだって。ダイエット企画だって他人にアドバイスする前に、まずお前がカウンセリング受ける、このピザデブ！っていうような奴が偏見丸出しの特集組んだりするんだぞ？

優香 まあ、一番偏見持つてるの圭太だったりするけどね。

圭太 そんなことないって。今まで何種類のダイエットに挑戦した？雑誌買ってきて特集見つける度に新しいことやってきたでしょ。

61

優香 えー？

圭太 ヨーグルトダイエットあったでしょ。ヨーグルト菌もらって牛乳でヨーグルト作って。毎日食べてたでしょ。

優香 うん。

圭太 夏場にやったもんだから直ぐ腐っちゃって、お腹壊して病院行ったよね？

優香 あれはたまたまよ。

圭太 チョコレートダイエットもあったよね？

優香 あった、あった。

圭太 カカロ七十%以上のチョコじゃないと効果ないのに、ホワイトチョコとかイチゴチョコ食べまくって、最高のダイエットを見つけたり！」って、一カ月後3キロ太ってたよね。

優香 でも、あれは私だけじゃなくて、他にも結構勘違いしてた人いたみたいよ。

圭太 大豆ダイエットもあったよね。

優香 もういいわよ。

圭太 ご飯ダイエット。じゃがいもダイエット。納豆ダイエットにワインダイエット。それで究極が絶食ダイエット。

優香 出た。絶食ダイエット。

圭太 あの特集の見出しまだ覚えてるよ。（優香に）覚えてる？「ついに見つけた究極のダイエット！食べるから太る！だから食うな！それではあなたは……」

62

優香 ゴー・トウー・ヘブーン！

圭太 死んだるやん！ゴー・トウー・ヘブーンて！

優香 いや、実際フラフラになったからね。

圭太 そりゃフラフラでしょうよ。何も食べてないんだから。

優香 いーじゃない。それだけ努力してるってことよ。

圭太 それは認めるけどさ。

優香 圭太だって私が美しいままの方が嬉しいでしょ？

圭太 え？

優香 何。今のセリフのどこに聞き返す箇所があるっていうの？

圭太 ないです。……ま、とにかく程々にね。
優香 へーい。

圭太、机に戻り仕事を再開する。優香、机の上に鏡を置いてパックを取る。余裕があれば基礎化粧品などをする。

優香 今日さあー。駅前にブティックあるでしょ？赤い看板の。

圭太 ……うん。

優香 あそこで、すんごいお気に入ってしまった洋服見つけちゃった。

圭太 ……へえ。どんなの？

優香 ワンピースでね、まあ、これといって特徴はないんだけどさ、何かいいのよねえ。

圭太 ……買えばよかったのに。

優香 ダーメ。今月夕飯作るのサボって外食多かったでしょ。金欠病という重い病に侵されているのです。

圭太 ……そつか……。

優香 あ、ごめん。ネタ考えてるんだっけ。

圭太 へー。ああ、別にいいよ。何か話してたらいきなり思いつくこともあるし。

優香 締め切り近い案件あったっけ？この前考えてたヤツは後は私のプレゼン待ちでしょ？

圭太 締め切りは十月だからまだ三カ月も先だけだね。取っ掛かりが全然掴めなくてさ。

優香 十月が締め切りって……ああー、あの携帯会社のCM？

圭太 そう。

優香 でも、あのクライアントの担当者、圭太の広告センスにベタ惚れでしょ？イメージアップに繋がるような

ものなら全部お任せって話じゃなかった？

圭太 その全部お任せってのが一番困るんだよ。

優香 えー。どうして？

圭太 いくら僕の広告センスにベタ惚れっていつても出来が悪ければOSは出せないだろう。ましてやそれだけ期待されて一発OSもらえないようなものプレゼンするわけにいかないでしょ。

優香 一発OSか。それはキツイね。

圭太 でしょ？

優香 携帯電話会社のイメージアップ……。携帯電話会社のイメージアップ……。

圭太 何、考えてくれてんの？

優香 そりゃあ、ちよつとでも役に立ちたいですから。

圭太 ありがたや、ありがたや……。

優香 いえいえ。

二人、しばし考える。

圭太 あ、そうだ。

優香 ん？

圭太 話、全然変わるけどね、今度のプレゼンうまくいったら、お祝いしようか。
優香 いいね。

圭太 さっき言ってたワンピース買ってあげるよ。ご褒美のプレゼントって事で。
優香 ホントに！？

圭太 うまくいったらね。

優香 よっしゃ！頑張るわよ。圭太は何が欲しい？

圭太 欲しいものは無いけど、ドリアが食べたい。

優香 ドリア。圭太、ドリア好きだね。

圭太 好きなんです。

優香 わかった。じゃ、最高の具材を使ってシーフードドリアなんてどう？

圭太 シーフードドリア！是非、成功させてくれたまえ！

優香 あ、そうか。この前のは圭太はもうネタ考えてあるから、後は私のプレゼン次第なのか。でも、ネタだけでも今回は相当イケてると思うよ。

優香 まあね。あのネタとプレゼンターエースの私がプレゼンすれば〇スは間違いないわよね。圭太 と、思うけどね。

圭太、大きく伸びをする。

圭太 うーん。ダメだ。疲れた。今日はもうお仕事終了です！

グツタリする圭太。

優香 ……圭太、圭太。

圭太 何？

優香 はい。

優香、正座をして、自分の膝をポンポンとたたく。

圭太 何？

優香 こっちおいで。

圭太 何で？

優香 膝枕してあげる。

圭太 膝枕？

優香 そ。疲れてるんでしょ？私の膝は癒されるわよ。

圭太 いいよ、恥ずかしい。

優香 何が恥ずかしいのよ。

圭太 甘えてるみたいじゃん。

優香 バカね。甘えていいのよ。

圭太 いいって。

優香 どーして。気持ちいいわよ？

圭太 ガキみたいだからヤダ。

優香 圭太って変なところでプライド高いよね。っていうか、変なプライド持ってるよね。っていうか、圭太って変だね。

圭太 あのな。

優香 いーじゃない。膝枕くらい。私ね、憧れてたの。疲れた彼氏を膝枕で癒すのが。

圭太 母性本能、溢れまくりだね。

優香 そーよー。いい女でしょ。さっ、カモン！

圭太 ……やっぱりいい。

優香 何よ男らしくないわね。本当は膝枕して欲しいんでしょ？

圭太 大丈夫。

優香 して欲しいんでしょ？

圭太 大丈夫。

優香 そんなこと言うならもうしてあげないよ？

圭太 ……。

優香 ホラ、して欲しいんじゃない。おいで。

圭太 風呂入ってくる。

圭太、上手へはけようとする。

優香 あ、そういう態度はカワイくないぞ。

圭太 可愛さなんて目指してないからいい。

優香 あ！旦那、旦那。お背中流しましょうか。

圭太 は！？

優香 あっし、こう見えても背中流しのプロですぜ。

圭太 いいって！

優香 なあーに、遠慮はいらねえよ。さあ！さあ！さあさあさあ！

優香、圭太のズボンを掴んで上手へはける。

圭太 あゝれゝ！

ピンポンと呼び鈴が鳴る。同時に照明が変わる。上手から圭太が出てくる。

圭太 はい。

そのまま下手へ。暫くして麗樹と一緒に戻ってくる。

圭太 すみません。今日はまだ仕事の途中です。

麗樹 あとどのくらいかかりそうなの？

圭太 まだアイデアを搾り出す段階ですので、切り上げられますけど。

麗樹 まあ、特訓の前に少し話があるから、やりながら聞いてもらえればいいわ。
圭太 はい。

優香 優香が入ってくる。圭太は机に向かい仕事する。

優香 あ、麗樹おはよ。

麗樹 おはよう。今日はコレを持ってきたから。

優香 何？

麗樹、カバンから日めくりカレンダーを出す。

麗樹 これ壁にかけとくわね。今日が何日なのか、残りの日数は何日なのか、キッチンと認識することは特訓には
大事なことよ。

優香 なるほど。

麗樹、壁にカレンダーを貼りながら、

麗樹 彼は新しい広告の仕事してるの？

うっん。仕事そのものは、もう三ヶ月くらい前からもらってるやつんだけど、なかなかいいアイデア
が浮かばないんだって。

麗樹　どこの広告？

優香　守秘義務があるから言っちゃいけないんだけどね・・・ま、私は幽霊だからいつか。携帯電話の会社からイメージアップに繋がるような広告を作ってくれって。

麗樹　へえ。携帯会社ねえ・・・でもイメージアップって随分漠然とした依頼ね。
優香　うん。それで圭太も苦しんでるみたい。

麗樹　麗樹、カレンダーを貼り終え、曲がっていないかどうか確認。
よし、と。あ、じゃあ新井さんも聞いてくれる？

圭太　はい。

麗樹　昨日も話した通り、現実見に挑戦するのは2回。1回目は3要素が良い時と、2回目は四十九日目ね。で、あの後帰って計算してみたら1回目の3要素ベストデーは9月20日よ。ちょうど2週間後ね。

優香　2週間か・・・結構特訓できる感じ？

麗樹　そうね。3要素の絡みだけじゃなくて特訓の成果もそれなりに出るかもね。

圭太　はい。

麗樹　その広告の締め切りはいつなの？

圭太　えーと、プレゼンが10月10日で、プランナーの締め切りがその1週間前になりますから、10月3日ですね。

麗樹　あ、そう。9月20日までは極力、特訓を優先して動いてくれる？それ以降、アイデア作りを頑張ればいいでしょ？

圭太　分かりました。

麗樹　じゃあメニューはここに書いてある通りにこなしてね！照準は9月20日！今日から本格的に特訓を始め

るわよ！覚悟しなさい！

2人　はい！

音楽・フィルコリンズ「ウェイ・トゥ・ヘブン」

BGMに合わせて特訓をする三人。動きだけのショートコントを作る。コントとコントの間に麗樹がカレンダーを破いていく。日には1日1日ではなく、何日かまとめて過ぎてもいい。

最終的にカレンダーが9月20日になった時点で暗転。

舞台が真っ暗なまま嵐の音。(風、雷、雨)暫くして明かりが付く。

舞台上には圭太、優香、麗樹の三人がいる。

すごい雨ね。季節外れの台風かしら。

3要素って天気は影響する？

それは大丈夫。さ、位置について。

三人、ちやぶ台を囲んで立つ。上手に優香。センターに麗樹。下手に圭太。

事前に注意しておくことがあるけど、いい？

はい。

前にも話したと思うけど、これから行う現実見は危険な呪術なの。分かりやすく言うと、新井さんを健康な状態のまま無理やり幽体離脱させるのよ。言ってる意味が分からないかもしれないけど、肉体と精神に負担がかかるのは何となく想像できるでしょ？

圭太　・・・何となく、ですが。

麗樹 それは優香も一緒よ。新井さんほどじゃないにせよ、優香も精神的にかなり疲労するはずよ。

優香、緊張のせいか、黙っている。

麗樹 優香？ちょっと大丈夫？緊張してるの？私の言うこと理解してる？

優香、首を縦に振る。と、突然、パーンという音がする。

麗樹 ラップ音で返事するの止めてくれる？しゃべりなさいよ。

優香 緊張とか、期待とか、不安が入り混じってさ……あ、でも期待の方が大きいかな？

麗樹 冷静にね。アンタはとにかく精神を集中させること。

優香 うん。

麗樹 でも、緊張してるのは私も同じなのよね。現実見なんて実際やるの初めてだからさ。

優香 大丈夫！？

麗樹 多分、大丈夫。私はただの媒介人だから……私の役目は二人の間に入って呪文を唱えること
によつ

て二人の気を高めることなの。いわゆるアンプの役目ね。

圭太 はい。

麗樹 新井さんには印を覚えておくから。

圭太 印ですか？

現実見は呪術のひとつだから、術が失敗した時に何が起こるか分からないの。とにかく、この印さえ結んでおけば悪い気からは身を守るから。

麗樹、圭太に印を教える。

麗樹 とりあえずそのまま印を結んで、精神統一してなさい。

圭太 分かりました。

麗樹 で、優香なんだけど。

優香 何？

麗樹 実際のところどう？特訓の成果は出てる？

優香 ダメ。紙つぺら一枚触れたことない。

麗樹 そっかぁー。やつぱりまだ時間が足りないか。

優香 でも、今日は3要素がいい日なんですよ？

麗樹 まあね。

優香 大丈夫。頑張る。私、本番に強いタイプだから。

麗樹 頼もしいわね。（圭太に）さ、もついいでしょ。始めるわよ。

優香 激しくなる雨音。セリフが入ると小さくなる。

麗樹 集中して。

麗樹が経を唱え始める。（あまり有名ではないもの）

経に合わせて再び雨音や風の音、雷の音が大きくなる。同時にキーンという耳障りな音がする。小さい音から徐々に大きく。膝について苦しそうな顔をする圭太。異変に気付く優香。

音楽・剣風伝奇ベルセルク「Ghosts」

優香 圭太？大丈夫？ねえ、麗樹、圭太苦しそうだよ。

キーンという音が大きくなる。雨、風、雷の音も大きくなる。

優香 圭太！圭太！（麗樹に）一旦中止にしよう！圭太苦しそうだよ！圭太苦しそうだよ！麗樹、麗樹！

キーンという音と、雨、風、雷の音が最高潮になると同時に圭太が悲鳴を上げる。

いきなり全ての音が止まり、全ての動きが止まる。やがてゆっくり倒れる圭太。

優香 圭太！圭太！

あわてて圭太に駆け寄る優香。しかし、圭太に触れることが出来ない。麗樹は経を唱えた疲れで肩で息をしている。やがて我に返り、圭太が倒れていることに気付く。

麗樹 新井さん！

中止にしてって頼んだのに！

優香 今そんなこと言ってる場合じゃないでしょ！

麗樹 だって何度も言ったのに！圭太が苦しうだから中止にしてって言ったのに！

麗樹 仕方ないでしょ、私だってトランス状態だったんだから、聞こえないわよ！……うわっ！凄
い熱！

早く冷やさなきゃ。タオルは台所？

優香 私、持つて来る！

優香、台所へ行くとするが、

麗樹 アンタじゃ持つて来れないでしょ！

優香、ビクツとして立ち止まる。麗樹、上手へはける。自分の両手を見つめて悲しそうにつつむく優香。
振り返って圭太を見る。

優香 圭太……。

麗樹が桶とタオルを持つてくる。ちゃぶ台に桶を置き、水を絞ってタオルを圭太の額にのせる。続けて
脈を測る。

麗樹 呼吸も脈も安定してる。熱だけみたい。多分、現実見の呪術に体と精神が耐えられなかったのね。暫くす
れば意識も戻るでしょ。

麗樹、机の所にあるイスにかかっている膝かけを圭太にかけてやる。

心配ないって。術の途中でこうなっちゃったんだから、そこまで負担はかかってないはずよ。

麗樹 優香、麗樹を睨んでいる。

何よ。だから仕方ないでしょ？私だって異変に気付ける状態だったらずに中止するわよ。いくら私でも
自分のお客さんに何かあつてほしくないし。

優香 今日、3要素がいい日だっていつてたのに。

麗樹 それは間違いないわよ。ちゃんと計算したんだから。

優香 この二週間だってメニュー通りに頑張ったもん。一生懸命やったもん。

麗樹 何が言いたいなのよ。

優香 このまま麗樹の言うこと聞いてて本当に大丈夫なの？
は？

優香 私も圭太も頑張ったもん！これ以上できないってくらい頑張つて……。今日を目標に頑張ったんだよ！？
なのに何で失敗するのよ！

麗樹 だから、新井さんの体が耐えられなかったんだって。

優香 圭太、筋トレ頑張ってたよ！？

麗樹　そうはいつでもたった二週間でしょ？どんなに頑張ったって限界があるでしょう。
優香　でも麗樹の言うとおりをやってきたんだよ！？

麗樹　．．．．私のせいだって言いたいのか？私のせいにしたいのね。
　　黙る優香。

麗樹　．．．．わかった。私が信じられないのなら好きにきなさい。

優香　麗樹、カバンを持って下手へ。

．．．あ．．．．

去り際の麗樹に声をかけようとするが、声が出ない。麗樹、そのまま去る。

急に苦しそうな声を上げる圭太。

優香　圭太。苦しいのか？大丈夫？

うめき声を上げる圭太。

優香　苦しいのか？圭太。

うめき声を上げる圭太。

優香　ごめんね。私が余計なこと言っちゃったから麗樹がいないの。ごめんね。

苦しうにうめき声を上げる圭太。優香、天を見上げて両手を重ねる。

優香　神様、どうかお願いします。

ゆつくりタオルを掴もうとするが、掴めない。

優香　ごめんね、圭太。ごめんね。神様、お願いします。お願いします。どうか少しの間だけ体をください！お

願います。少しの間だけ体をください！

ゆつくりタオルを掴もうとするが、掴めない。

優香　お願いします。お願いします。体をください。お願いします。お願いします．．．。

キーンという音がして、優香がタオルを掴むと同時に消える。

優香　ありがとうございます。ありがとうございます．．．。

優香、桶にタオルをつけて絞り、圭太の額にのせる。

優香　ごめんね、圭太．．．．。

嵐の音がある。舞台上の明かり、徐々に暗くなる。二人だけをサスで照らす。暫くしてもう一度タオル
を取替え、圭太の額にのせたり、桶の水を替えに行ったりする。サスの明かり徐々に暗くなり、また次
第に明るくなる。（暗転にはしない）

チュンチュンと雀が囀る音がある。舞台が次第に明るくなる。優香は圭太を見守っている。

目を覚まし、額のタオルをどける圭太。

あ、目が覚めた？

圭太　うん。あ、これありがとう。

優香　どういたしまして。

と、急に圭太が飛び起きる。

圭太　優香！？

が、圭太は優香が見えない。

圭太　優香。優香？

優香　圭太．．．．見えない？

圭太 ……。

優香 声も聞こえなくなっちゃった？一瞬だけ？

圭太 優香、今ね、優香の声が聞こえたよ。“どういたしまして”って聞こえたよ。

優香 うん。

圭太 ちゃんと聞こえたよ。

優香 うん。

圭太 これってきつと特訓の成果だね？絶対そうだよ。昨日は失敗しちゃったけど、このまま麗樹先生のいうとおりになれば絶対会えるよ！僕、頑張るからさ！

立ち上がるうとするが。しゃがみ込む。

圭太 いてて。何だこれ。スゲー、全身筋肉痛だ。

無理やり立ち上がる圭太。伸びをする。

圭太 いてて。でも、声が聞こえたんだよ。どういたしましてって、優香の声が聞こえたんだよ。特訓すれば何とかなる。絶対何とかなる！優香も大変だろうけど頑張ろうな！

優香 圭太、ごめん……。麗樹、もう来てくれないよ。私、麗樹にヒドイこといっぱい言っちゃった。

圭太 まずは顔洗ってくるか。いや、何かもう気が乗ってるな。筋トレやるか。

ヒドイこといっぱい言っちゃった……。何であんなこと言っちゃったんだろ。

圭太、筋トレを始める。

圭太 いて。やっぱりキツイな。

優香 自業自得か……。圭太、ごめんね。

ピンポンと呼び鈴が鳴る。

圭太 おつ、来たかな？はい。

圭太、下手へはける。ドキドキする優香。圭太が戻ってくる。後ろには麗樹の姿が。

圭太 で、ですね！体は筋肉痛でキツイんですけど、でも気力が充実してますから！さっきですね、優香の声が聞こえたんですよ！現実見には失敗しましたが、絶対、特訓の成果ですって！やりますよ僕！今度は絶対、成功してみせますから！

気まずそうに、だが、相手から目をそさない優香と麗樹。

圭太 ですから……。あ、あれ？どうかされました？

麗樹、優香の前へ移動する。

……。来てくれたの？

麗樹 言ったでしょ？私は幽霊のことなんか信じないって。私のお客さんは、あくまでも新井さんよ。幽

霊にクビにされたくらいで辞めるわけじゃない。

うん。

優香 300万円なんてオイシイ話、そうそう無いんだから。

麗樹 うん……。麗樹。

麗樹 何？

優香 ごめんなさい。

麗樹 うえ！？

優香 何よ“うえ！？”って。

麗樹 何でそんなに素直かな？

優香 昨日のことは本当に悪かったって思ってる。私が勝手に期待して、失敗したからって全部麗樹のせいにしてた。でも私、麗樹が帰った後でタオルを触ることが出来たの。圭太が私の声を聞くことが出来たの。圭太の言うとおり、特訓の成果なんだと思う。だから、ごめんなさい。

麗樹 ふーん。特訓の成果があっただんだ。

優香 そ、そうよ。

麗樹 私のおかげってこと？

優香 だから、そうだって言ってるでしょ。素直に謝ってるんだから許しなさいよ。

麗樹 うわ。またキレた。

優香 あ、ごめんなさい。

麗樹 って、冗談よ。アンタはやっぱりそうでなきゃ。

優香 え？

麗樹 で、そうなると私も優香に謝らなきゃ。

優香 ……何で？

麗樹 優香にキれるキツカケつくったのは私なんだよね。アンタあの時、現実見が失敗してショック受けてる上に、新井さんが倒れてパニックってたでしょ。そんな時に私、ヒドイこと言っちゃったじゃない。

優香 何て？

麗樹 タオル取りに行こうとしてる優香に向かって“アンタじゃ持ってこれないでしょ”って。

優香 ……ああ。

麗樹 多分、キツカケはアレよ。伝えたいことがあるのに伝えられない。何かしてあげたいのに、何もしてあげられない。そんな時に他人から止め刺されちゃね。だから、半分は私のせいでもあると思って。だから、

ごめん。

優香 うん……ごめん。

麗樹 ウチに帰って冷静になって気付いたの。本当は来るの勇氣いったんだ。でも、来て良かった。

優香 うん。来てくれて良かった。

圭太 あのー。麗樹先生？

麗樹 何？

圭太 話が全然見えないんですけど。

麗樹 いーの。これは女の話よ。

「ねー。」と二人で言い合う。

圭太 女の話？

麗樹 大切な言葉をね。ちゃんと伝えに来たってことよ。

「ねー。」と二人で言い合う。

圭太 大切な言葉？……伝える？

「ブツブツと独り言を始める圭太。

でも残念ね。

何が？

麗樹 私さ、あんまり人付き合い得意な方じゃないから友達とかいないんだけどさ、本音で話し合える人がまさ

か幽霊とはねー、

優香 そうだね。残念だね。生きてる時に会いたかったね。

麗樹 残念だね。

圭太 そうだ！それだ！！

圭太、机に向かい、ノートを取り始める。

麗樹 何、どうしたの？

優香 あ、ひよっとして……。

麗樹 何？

優香 例の広告のネタが思いついたのかも！

麗樹 本当！？

二人、机へ移動する。

麗樹 ねえ、新井さん。優香が広告のアイデアが浮かんだのかって。

圭太 はい。そうなんです。と、いっても新しいことじゃなくて、根本というか、原点というか、ど

うやら僕は難しく考えすぎていたようです。当たり前のことをもつとストレートに表現すればいいんですよ。新サービスの広告じゃなくて、イメージアップの広告なんですから。

優香 ふんふん。

麗樹 ふんふん。

圭太 ……あ、いや、“ふんふん”と先を施されてもまだここまでなんですけど。

2人 なぁーんだ。

圭太 でも、もう少し時間を下さい。まとめちゃいますから。麗樹先生、すみません。仕事の時間もらってもいいですか？

麗樹 そりゃあ、まあ、元々今日は様子を見に來ただけだから。全身筋肉痛でしょ？
ええ。

麗樹 でしょ。しっかり休むことも大切よ。その分しっかり仕事しなさいな。
はい！

圭太 仕事を始める圭太。

優香 邪魔しちゃうから。

と言つて、ちゃぶ台を指差す。

麗樹 そうね。

2人、ちゃぶ台へ移動。上手に優香。センターに麗樹。

麗樹 あ、そうだ。もうひとつ誤るっていうか、訂正しておかないと。

優香 何？

麗樹 彼氏、いい男かもね。

優香 え！？

麗樹 いや、私の好みでは全然、全く、あり得ないから心配しなくて大丈夫。

優香 そこまで言うことないでしょう。

麗樹 ただ、あの一生懸命さは、いいよね。

優香 ふふん。でしょ？

麗樹 男を見る目は優香の方が上みたいね。

優香 ……ねえ、麗樹。

麗樹 ん？

優香 ひとつ聞いてもいい？

麗樹 何を？

優香 麗樹の好きだった人ってどんな人？

麗樹 過去形かい。

優香 だって過去のことでしょ？

麗樹 ……どうしてそう思うの？

優香 麗樹が初めてこの家に来た時にさ、私に言ったこと覚えてる？“いつちまう人間は気楽なもんさ。

でも残された方はたまったもんじゃない”って。……残された方って、麗樹のことじゃないの？

アンタは変なトコで鋭いわね。

優香 何かね、あの時、麗樹の痛みが伝わってきた感じがしたの。

麗樹 ふーん。

優香 ね、どんな人？それとも話したくない？

麗樹 ……大塚晃って知ってる？登山家の。

優香 登山家の大塚晃？聞いたこと無い。登山家事体知ってる人いないし。業界では有名な人なの？

全然。まったくの無名。

麗樹 何よそれ。

麗樹 でも、それが私の好きだった人。大学のひとつ上の先輩で、格好良かったのよ。

優香 ふんふん。それで？

麗樹 ……優香達は付き合ってたのくらいで一緒に暮らし始めた？

優香 え？結構早かったよ。お互い前の家が職場から遠かったから、じゃあ引越そうって、一緒に住むことにしたの。……2、3ヶ月くらいかな。

麗樹 私達はね、付き合ってたのは5年だけど、一緒に暮らしたのは最後の半年間だけ。

優香 最後の半年？

麗樹 新人の登山家の生活なんてそりや厳しいもんよ。私と彼も必死にバイトした。でも楽しかったなあ。また

優香 あの頃に戻りたいとは思わないけど。

麗樹 優香、苦笑い。

麗樹 彼は登山家としてのトレーニングがあったからさ、私が内職したり、スポンサー探しとかしたのよ。

優香 へー。麗樹って意外と尽くす女なんだ。

麗樹 そうよお。尽くす女なのよ。でね、ある日、本当にスポンサーが見付かったの。

優香 へえ、凄いじゃん。

麗樹 うん。彼もね、喜んでくれたし、感謝してくれたけど、私は嬉しくなかったの。っていうか、むしろ怖く

優香 なっちゃってさ。スポンサー探しなんて止めとけばよかったって。

麗樹 ……怖くなった？

優香 音楽・コキア「デスペラード」

麗樹 うん。怖くなった。でも言えないじゃない。長年の夢が叶う直前になって、諦めて一緒にいて欲しいなん

て言える？私の気持ちも知らないで“まだ誰も行った事の無い所へ行ってみせる”って目えキラキラさせて言うのよ？何も言えないわよ。本っ当。女つて矛盾した生き物よね。好きな人には頑張ってもらいたい、成功して欲しいって気持ちと、遠くへ行かないで自分と一緒にいて欲しいって気持ちが同居してるんだもん。で、本格的な登山の海外デビューとして選んだのが、北米大陸最高峰のマッキンリー。現地ガイドを含めた5人でアタックして、最初は結構、順調に進んでいたらしいんだけど、

けど？

山頂付近で急に天気が崩れて吹雪になったらしいの。やりすごそうとテントを張れる場所まで移動してる途中で足を滑らせて……。そのまま見えなくなったらしいわ。他の4人は天気が回復するのを待って下山して、直ぐに捜索隊を呼んで大掛かりな捜索をしたらしいけど、とうとう見付からなかったって。

え？

麗樹 見付からなかったって。だから、あの人は今もマッキンリーにいるのよ。私を置いて、自分の夢を追いかけて、本当に遠くへ行っちゃった。私ね、何度も頼んだの。もう一度捜索してくださいって。現地まで行って頼んだけどダメだった。そりゃそうよね。一人の民間人だけ特別扱いするわけにはいかないもんね。……で、決めたの。自分で捜索隊を雇おうって。探して、探して、最終的に見付からなかったとしても自分が納得できるまで捜索してもらおうって。置いていかれた私はそのくらい馬鹿をしないと前へ進めないんじゃないかって思ったからね。いくらかかるか分からない。でも絶対そうしようって決めたのよ。そうじゃないと、私は、私自身ですら幸せに出来ない人間になっちゃうからね。

85

優香 そっか。だから？

麗樹 私はお金に生きる女なのよ。

優香 なるほどね……。……見付かるというね。

麗樹 ……。何が？

優香 何がって、彼氏がよ。

麗樹 ……ねえ、今の話が本当なのと、私は生まれつき守銭奴ですっていう告白と、どちらの方が本当っぽい？

優香 え？……。そりゃあ、守銭奴？

麗樹 まあ、そうよねえ。

2人、笑う。と、突然。

圭太 できたー！！！！

優香 あービックリした。

圭太 お待たせしました。できました。

麗樹 へー。どれどれ。

圭太 2人、机へ移動しようとするが、ストップ！

麗樹 え、何よ。

圭太 内容は本番のプレゼンを楽しみにしておいて下さい。麗樹先生は特別に僕がご招待しますから。それから、優香にも見て欲しいんだ。

麗樹 見えない優香に話しかける圭太。うなずく優香。うなずいてるよ。

麗樹の言葉にうなずく圭太。

優香 あ、でも、この部屋離れて平気？3要素が悪かったら私、プレゼン会場にいれないかも。
麗樹 大丈夫。

麗樹、カバンから2枚目のお札を出す。
これ直接貼つとけば大丈夫よ。

優香 ……もしかして3万円？

麗樹 ううん。5万円。

優香 何で割高なのよ！普通2枚目とかだったら割引でしょ！？

麗樹 大量生産できるものならね。でもこれは希少品だから。

優香 やっぱりただの守銭奴ね。

麗樹 あ、じゃあいいらない？

優香 買います！買えばいいんでしょ、買えば！

麗樹 まいどあり〜。

麗樹、優香のおでこにお札を貼る。

麗樹 でもとりあえずプレゼンの10月10日までは特訓を続けるわよ。

圭太 はい！

優香 ふぁーい。

優香、おでこにお札をつけたまま返事。

暗転。(もしくは、圭太だけにピンを当てて、優香と麗樹は上手へ去る)

圭太、カレンダーを破る。(日付は10月10日)

プレゼン台にサス。対角線上に圭太が立っていて、プレゼンの準備をしている。
優香と麗樹が入ってくる。

こんにちは。

あ、どーも。もう少しで始まりますから。

楽しみね。

……麗樹先生。

何？

まさか、優香、このままで来たんですか？

そうよ。

キョンシー優香と呼んでね。

あの、麗樹先生には優香が見えてるからいいかもしれないですけど、僕から見るとお札が宙に浮いているようにしか見えないですよね。

しまったー！

よく騒ぎになりませんでしたね。

足の裏にでも貼つときなさいよ。そうすればお札が落ちてるようにしか見えなでしょ。

誰かが拾おうとしませんかね。

その時は逃げるしかないでしょ。

お札を貼りがえる麗樹。

優香 ねえ、それはそうと、他のスタッフは？流石にリハーサルやつかないとまずいんじゃない？

麗樹 他のスタッフはって。

圭太 ああ、まだ来てないんですね。もう着いてないとおかしいんですけど。

優香 誰がプレゼンターなの？

麗樹 誰がプレゼンターなのかって。

圭太 神田さんです。

麗樹、「？」という顔で優香を見る。

優香 私の上司。プレゼンのいろはを教えてくださいました人なの。神田さんなら安心して見てられるわね。でも、神田さんなら尚更来てないとおかしいわね。

圭太、マイクのテストをする。

圭太 テス、テス、マイクテス、あー。あー。

麗樹 大丈夫なの？そういうの本来なら新井さんの仕事じゃないんでしょ？

圭太 基本的にはそうなんですけど、出来ないわけじゃないんで。他の会場からスタッフが遅れることは、まあ、よくあることですから。

優香 圭太は優しいのよね。

麗樹 はいはい。

圭太の携帯電話が鳴る。圭太、着信を確認

圭太 あ、神田さんだ。（電話に出て）お疲れ様です。……ええ、もう会場にいますよ。一応準備も終わってます。早く来てくだ……。は！？ちよつと、無理ですよ！……。無理ですって！今どこなんですか？……。えー？……。待ってくださいよ。他のプレゼンターは？……。マジですか。えー！？

あ、ちよつと神田さん！……。あ……。

携帯を切つて、呆然とする圭太。

優香 どうしたの？

麗樹 どうしたの？

圭太 神田さんからで、今高速にいるらしいんですけどね。事故があつて通行止めらしいんですよ。到着の見通しがたないって。

優香 どうすんの？

麗樹 どうすんの？

圭太 他のプレゼンターは全員他の会場でプレゼン中らしいんです。

優香 まさか。

麗樹 まさか。

圭太 僕にプレゼンしてくれって。

2人 ええー！！？

麗樹 つて、あ、でもさ、内容一番分かってるの新井さんだからさ。

圭太 無理ですよ！

麗樹 何で。

圭太 何でって……。

麗樹 だって、見通しついてないのにただ開始時間遅らせるわけにもいかないでしょ。
圭太 そうですけど、無理ですよ！

麗樹 優香にこのプレゼンで伝えたいことがあるんじゃないの！？
圭太 ……それはそうですけど。

優香 ドアの音。ガヤガヤと人の声がする。
クライアントよ。

麗樹 あら、結構多いわね。3、4人くらいかと思ってた。
優香 多分、マスコミ関係の人もいるんじゃないかしら。

麗樹 さ、行つて、行つて！！

麗樹、圭太をドンと押し、プレゼン台へ移動させる。

優香 あ、圭太！

プレゼン台でオドオドする圭太。

圭太 あ、あの……。

マイクが入っていない。

麗樹 マイク、マイク！

マイクを入れる圭太。鼻息がする。

麗樹 最悪。

優香 圭太、上がり症なのよ！？

麗樹 え？

優香 上がり症なの！！大勢の人の前でなんかしゃべれないのよ！だからプランナー専門でやってきたのよ！
でも仕事よ？

麗樹

優香 それは上がり症じゃないから言えるセリフよ。圭太がアソコに立つのは苦痛以外のなにものでもないの！
でも……それでも今この場でプレゼンできるのは新井さんしかいないんだから。見守りましょう。

麗樹

圭太 え……。只今より……。プレゼンをしたいと思います。あ、行いたいと思います。あ、いえ、行きます。プレゼンを行います。

圭太、固まつたまま動かない。ザワザワし始める会場。

圭太 えー。それでは、3分ほど休憩に入ります。

ザワザワする会場。ドアの音がして、外へ出るクライアント。

もう見てられない！

優香、圭太の近くへ行く。

圭太 無理、無理、無理。絶対無理。絶対無理。

一人、ブツブツとつぶやく圭太。

優香 圭太、落ち着いて、圭太。

圭太、独り言を繰り返す。

優香 圭太！

プレゼン台に顔をうずめて、独り言を続ける圭太。

左手を強く握り締め、祈りを込める優香。

優香 圭太……。圭太……。圭太……。圭太……。

祈りを止め、左手を圭太の左手へゆつくりと重ねる優香。

優香 圭太。

圭太 え？

優香 圭太、分かる？聞こえる？私の声。

圭太 優香？

優香 大丈夫。落ち着いて。圭太なら大丈夫だよ。

圭太 でも！

優香 私が力を貸してあげる。まずは深呼吸よ。リラックス、リラックス。

圭太、深呼吸する。

優香 圭太なら大丈夫だから。まずは……そうね、プレゼンの資料を出しましょうか。

圭太、プレゼンの資料を出す。

優香 あら、随分細かく打ち合わせしてるじゃない。書き込みビッチリ。

圭太 ……どうしても成功させたかったからね。

優香 うん。成功させたいね。でね、まずね、最初のうちはこの原稿だけ読んではいいから。

圭太 え？

優香 前見なくていいから。原稿だけ読んではいいから。

圭太 原稿だけ？

優香 そ。原稿だけ。前見なくていいから、ひたすら原稿読むだけ。これなら出来るでしょ？

圭太 ……まあ。

優香 でね、不思議とね、原稿読んできると平気になってくるから。そしたら前を向いて、伝えたいことをつたえればいいの。気の効いた事しようとか、うまく見せようとかしなくていいの。一生懸命やれば分かってく

れる。ただでさえクライアントは圭太のセンスにベタ惚れなんだから。

圭太 ……そうかな？

優香 絶対よ。……あとはね……。それでも緊張するようだったら、クライアントなんてかばちゃだと思

いなさい。

圭太 カボチャ？

優香 カボチャ。

圭太 カボチャ……。って、それ、僕のセリフだろ！？

笑う優香。再びドアの音がしてクライアントが入ってくる。

ザワザワという音がして、やがて静かになる。

いい？……。それではお待たせしました。

圭太、下を向いたまま。

圭太 それではお待たせしました。

優香 プレゼンを再開いたします。

圭太 プレゼンを再会いたします。……。えー……。えー……。

圭太、資料を見やすい位置へ持つてくる。

圭太 今回、携帯電話会社のイメージアップということえ、我々は苦しみました……。これだけ語りつくされた商品も無いと思います。えー。携帯電話が普及して10数年。これまで様々な進化を遂げてきました。メールが出来るようになりました。写真が撮れるようになりました。音楽が聴けるようになりました。インターネットやゲームができるようになりました……。ですが、これはケータイなんです。携帯電話な

んです。

圭太、大きく深呼吸。

圭太、頑張って。

優香

圭太、無言で小さくうなずく。

圭太 お手元の資料をご覧ください。これは弊社で行ったケータイの使用用途に関するアンケートの集計結果です。結果はご覧の通り。1位はメール。2位はインターネット。そして3位に通話。以下、音楽、デジカメと続きます。……えー、あ、あれ？

圭太、次の原稿を読もうとするが、どれだか分からなくなる。

優香 落ち着いて。ゆっくり探せば大丈夫。あせらなくていいから。大丈夫。よくあることよ。2枚一緒にめくったりしてない？

95

圭太、原稿を確かめる。実際、2枚同時にめくっていた。原稿を戻す圭太。

圭太

失礼しました。えー。ケータイを持つ人たちの使い方は。このようになっていくのです。ポケベルであり、小型マ〇であるといえます。ですが、だからといって、はたしてポケベルが現在ここまで普及するのでしょうか？今のケータイと同じようにお洒落にして、カラーバリエーションを増やしたところで、ケータイの使用者がポケベルへ流れるでしょうか？同じように、小型マ〇を作ったとして、これほどユーザーを獲得できるでしょうか？

圭太、大きく深呼吸。

圭太

私はそうは思いません。なぜケータイがここまでユーザーを獲得できているのか、それは、これが電話だからだと、私は思います。

ザワザワとするクライアント。

圭太

確かに使用用途は様々ですが、このケータイを持ち続けるのは、これが電話だからです。電話としての機能、それは、相手の声が聞こえるということです。

ザワザワとするクライアント。

圭太

どんなに遠く離れていても、相手の声を聞くことが出来る。それは実はとても素敵で、とても幸せなことだと思つのです。そして、そのことを心の中では皆分かつているのではないかと思つのです。携帯電話のイメージアップということで苦しみましたが、答えは原点に帰ること。電話で相手の声が聞けて、相手に自分の声で伝えたいことを伝えられる喜び、そこをポイントにすべきだと考えます。人は誰しも伝えたいことを抱えていると思います。

圭太、しばし考えて、やがてゆつくりと顔を上げる。

……僕にもあるんです。

圭太

ちよつと圭太？

優香

圭太 伝えたいことがあるんです。どうしても自分の声で、言葉で伝えたいことがあるんです。……CMのネタのひとつになればと思いますので、今ここで発表させて下さい。

クライアントから拍手が起こる。

圭太

ありがとうございます。

圭太、今までで一番大きく深呼吸。

音楽・ピーター・セララ「ステイ・ウィズ・ミー」

圭太

僕には彼女がいます。負けん気が強くて、甘えん坊で、頼りがいもあって、意外と家庭的な彼女です。僕

に優しい彼女です。告白は彼女の方からだったので、先に好きになったのは自分だと思っ
ているようですが、実は違っんです。僕は……一目惚れだったんです。彼女は縁があ
って僕のプランをプレゼンするようになったと思っっているようですが、それも違
うんです。彼女の上司に頼んだんです……。それから一緒に仕事するようになって、
僕は益々彼女のことが好きになりました。でも情けないことに僕には告白する勇
気がありませんでした。ずっと片思いだろうっと思っってたんです。だから、彼女
に告白された時は、それが告白だっけ気付きませんでした。あまりにも幸せすぎ
て……。僕はまだ片思いだった頃の気持ちを伝えていません。キャッチコピーとし
ても使えるよう、その気持ちを詩にしてみました。“冬の月”という詩です。

圭太

圭太、一呼吸おいて、

冬の月。冬の月は高いところにあります。とてもとても高いところにあります。

97

どんなに傍にいても、たとえ隣を歩いていても、

手が届かないという点では、君と同じです。

圭太、一呼吸おいて、

圭太

以上、御社のイメージアップの為のプレゼンとして、電話の原点に帰るということ、
キャッチとして「伝えたい想いを自分の声で」。その恋愛編として今の“冬の月”を
ご提案したいと思っっています。

一瞬の間の後、クライアントから拍手が起こる。ホッとする圭太。

麗樹も拍手。

圭太

では、お食事を取りながら意見交換をしたいと思います。皆様、別室へご移動
ください。

クライアント、ガヤガヤと外へ出て行く。残る三人。麗樹が拍手をしながら
近づいてくる。

麗樹

お疲れ様。良かったわよ。

優香

ね。ジーンときちゃった。

麗樹

そりゃ、アンタはね。

優香

えへへへへ。

麗樹

本っ当にアンタ達はバカップル一歩手前って感じね。

優香

バカップルでいいもん。バカップルだから奇跡を起こせるのよ。ね、圭太。

圭太、反応しない。

優香

圭太？

圭太、反応しない。

麗樹

新井さん。

圭太

はい。

麗樹

今、優香が名前呼んでたの聞こえなかった？

圭太

え、あ、そっなんですか？

麗樹

やれやれ。

圭太

優香。ありがとね。助かった。

見えない優香にお礼を言う。

優香

どういたしまして。

麗樹

どういたしまして。

うなずく圭太。

98

圭太

また声が聞こえなくなっちゃいましたね。

悲しそうな顔をする圭太と優香。

麗樹

・・・ねえ、優香。

優香

ん？

麗樹

やっぱりさ、ちゃんとした形で会いたい？声だけじゃなくて、自分のことをキチンと見てもらいたい？

優香

そりゃあー！

麗樹

そうよね。そうよね。・・・そりゃそうよね。

何か考えている麗樹。

優香

何？

麗樹

いや・・・あのね・・・。あーでもなあ！

優香

何よ。

麗樹

いや、あのさあ。

圭太

もしかして何かいい方法があるんですか？教えてください！

麗樹

いや、だから・・・。

圭太

お願いします！

優香

麗樹！お願い！

麗樹

いや、その・・・。

圭太

お願いします。出来ることなら何でもしますから！

優香

ねえ、麗樹。今度はキレイたりしないから、お願い！

麗樹

分かった、分かった！分かったから落ち着いて。

圭太

あ、すみません。

麗樹

・・・いや、今年ね、忘れてたんだけど、閏年なのよ。

優香

閏年。

麗樹

だから、3要素が高まる日が一日増えるのよ。それが明後日の10月12日。2回も奇跡を起こせだし、

特訓の成果が出ている今なら現実見を行えば確実に優香の姿が見えると思う。

優香

やったあ！何よもう！もったいつけて！

圭太

大丈夫ですよ。今なら体力にも自信ありますし、さっきの奇跡だって大半は優香の力かもしれませんけど、

麗樹

僕の禅の成果も絶対あると思います。だから集中力だって前回とは絶対違うはずですよ。

圭太

そう、前回とは違うのよ。集中力が

麗樹

はい。

圭太

うっん。新井さんのじゃなくて、優香のが。

優香

私？

麗樹

前に今のアンタは精神体だって教えたでしょ？

優香

うん。

麗樹

そして、精神は無限じゃないの。疲れとか、そういったものではなくて、本当にゼロになってしまつもの

なよ。でも、ゼロになる前にあの世へ行かなきゃいけない。

優香

それは分かるけど、圭太とキチンと会えたら元々成仏するつもりだったし、別にいいんじゃない？

麗樹

現実見にはかなり集中力を使うから、新井さんと会って話せたらその場で除霊を行うわよ。

優香 その場で？

麗樹 そう。12日に現実見をしなければ49日目の15日ギリギリまで一緒にいられる。もちろん、現実見にも挑戦できるわよ。でも3要素は普通だから成功する可能性は5分5分といったところね。

優香 5分5分か……。

麗樹 よく考えて。私にはどちらの方がアンタ達にとっていいのかわからないから。今すぐの返事じゃなくてもいいんだし。今日、明日と考えてからでも。

圭太 ちなみに、12日なら成功する確率はどのくらいだと思います？

麗樹 おそらく9割以上の確率ね。

優香 なんだ。それなら考えるまでもないじゃない。

2人、ほぼ同時に。

優香 やるわ。

圭太 やります。

麗樹、少し苦笑いして、

麗樹 ……まったく、本当にバカップルね、アンタ達。

優香 でも、そういうカップルも、

麗樹 嫌いじゃないわね。

優香 でしょ？

麗樹 じゃ、12日に。

圭太 はい。

優香 分かった。

優香のピンだけ残して暗転。カチコチと時計の音。

優香、ゆっくりカレンダーに近づいていく。一枚破り、暫くしてからもう一枚破る。日付は10月12日。時計の音が止まる。

圭太が入ってくる。同時に明かり。優香はそのままカレンダーを見ている。圭太はプレゼントの袋を持っていく。それをちやぶ台の上に置いて、カレンダーの前へ来て、見る。

圭太 今日だね。

ポツリとつぶやく圭太。小さくうなずく優香。

圭太 ちよつといい？こつち来て座って。

圭太、ちやぶ台へ移動。優香、圭太の反対側へ座る。

優香 圭太、まさか……。

圭太 あ、えーと。まだ見えてないし、声も聞こえないんだ。

ガツカリする優香。

圭太 あ、今ガツカリしたでしょ。見えないし、声も聞こえないけど、存在は感じてるよ。ここに優香がいるって。

優香 そっか。それなら現実見、絶対成功するね。

圭太 これなら現実見も成功するんじゃないかな。

2人、しばし間。お互いがお互いを見つめている。

圭太 あ、これね……。本当はあの日にプレゼントする予定だったんだけど。

圭太、プレゼントの袋からワンピースを出す。

優香 あ！それ！

圭太 これでしょ？優香が欲しがってたワンピース。……本当は袋も優香に開けて欲しかったんだけどね。

優香 圭太……ありがとう。

圭太 これさ、現実見の時に着て見せてよ。似合うかどうかかわかんないけど。

優香 絶対似合います〜！

圭太 あ、今ふくれたでしょ。

2人、しばし間。

圭太 絶対、成功させようね。

優香 うん。

2人、しばし間。

圭太 でも、やっぱり……！

言いかけたところで呼び鈴が鳴る。優香の方を見た後、玄関へ移動する圭太。優香は圭太を目で追う。

圭太と麗樹が入ってくる。優香と麗樹、目を合わせる。

優香 おはよ。

麗樹 今日だね。

優香 うん。

麗樹 今日でバイバイだね。

優香 そうだね。麗樹、今までありがとね。

麗樹 ちょっと止めてよ。そういうアレじゃないんだから。

優香 何よ。そーゆーアレって。

麗樹 いいから。とにかくそういうの無し無し。私は関係ないんだから。アンタ達二人の問題でしょ。

優香 本当は寂しいクセに。素直じゃないんだから。

麗樹 寂しくない。

優香 寂しいクセに。

麗樹 寂しくない！

優香 素直になりなつて。

麗樹 寂しくなーいつて！

優香 そっか。寂しくないか。

麗樹 馬鹿！寂しいに決まってるじゃない！（圭太に）アンタも何か言いなさいよ！もう会えなくなるの

よ！？15日まで伸ばす！？

圭太 いえ、現実見は今日やりますよ。僕はどうしても、もう一度優香の顔が見たいんです。声が聞きたいんです。

麗樹 じゃ、何でそんなに冷静でいられるのよ！もう会えなくなるのよ！？

圭太 いえ、冷静なわけじゃないですよ。ただ……胸がいっぱい過ぎてどう表現していいかわからないんです。

優香 私も……かな。笑えばいいのか泣けばいいのか分かんない。

麗樹 そっか。

圭太 麗樹先生。

麗樹 何？

圭太 現実見の時にこれを優香に着て欲しいんですけど、いいですか？

麗樹 プレゼント？

圭太 はい。

麗樹 もちろん、いいに決まってるじゃない。（優香に）よかったね。

優香 うん。

圭太 じゃ、これ、あっちの部屋に置いとくね。着てから出てきてよ。

見えない優香に言って上手へはける圭太。

麗樹 優香。言っておくことがあるの。

優香 何？

麗樹 今の新井さんの体力なら現実見はまず間違いないと成功すると思う。でもね、やっぱり精神力はそんなに持たないと思うのね。会話できる時間は長くて10分てところね。

優香 それ過ぎたら圭太、また苦しむ？

梨樹 ううん。それはない。精神の疲労でそのまま眠っちゃうだけよ。目が覚めたらもう優香はいなくなってる。

優香 10分か。

麗樹 長くてね。……いい？現実見の時間はアンタの為の時間なんだから、好きなようにしなさい。

優香 うん。ありがと。

麗樹 新井さんには教えないわよ。何も知らないまま眠ってしまった方がいいでしょ？

優香 うん。無理してほしくないし。

麗樹、小さくうなずく。圭太が戻ってくる。

優香、上手。麗樹、センター。圭太、下手へ座る。

麗樹 じゃ、新井さん。本当にいいのね？

圭太、黙る。

麗樹 新井さん？……新井さん。

圭太 すみません。もう聞かないください。僕、本当はずっと迷ってるんです。今日で優香と本当のお別れかと思うと怖いんです。今までだって姿は見えなかったし、声も聞こえなかったけど、そこに優香はいたんです。ね？麗樹先生。優香はそこにいますよね？

麗樹 ええ。

圭太 怖いんです。でも、怖いけど決めたんです。本当のお別れの前は絶対優香の顔を見てお別れしようって決めたんです。だから……

優香 ありがと。

麗樹 優香がありがとって。

圭太 はい。

麗樹、大きく深呼吸して。

麗樹 それじゃ始めるわよ。優香、着替えておいで。

優香 うん。

優香、上手へはける、

麗樹 印の結び方は覚えてる？

圭太 はい。

麗樹 現実見が完成するまでは体がつらいだろうけど頑張つて。波を乗り越えれば楽になるから。
圭太 はい。

圭太、麗樹、印を結ぶ。

麗樹 始めるわよ。

圭太 はい。

経を唱え始める麗樹。しだいにキーンという音がする。音、だんだん大きくなる。音が大きくなるに連れて苦しみだす圭太。やがて一瞬だけ音が一層大きくなり、直ぐにピタリと止まる。

麗樹 新井さん。

呼吸を落ち着かせようとする圭太。

麗樹 新井さん。

圭太 はい。

麗樹 よく頑張つたわね。今、現実見の中よ。

圭太 じゃあ！？

麗樹 待つて。今、呼んでくる。

麗樹、上手へ。圭太、自分の体を見る。麗樹、戻ってきて元の場所へ。

麗樹 今来るから。

圭太、祈るように頭を抱える。優香、上手から声をかける。

優香

圭太。

その声に顔を上げる圭太。

照明が変わる。ゆっくり入ってくる優香。

音楽・奥華子「変わらないもの」

．．．．．よつ。

よ。

圭太 ．．．．．似合うね。

優香 ふふん。ありがと。よく分かったね。私の欲しかったワンピ。

圭太 だって、それモロ優香の好みじゃん。分かるよ。

優香 そっか。分かっちゃうか。

圭太 分かるよ。

優香 うん。

圭太 本当はさ、それプレゼントしたらデートに誘つつもりだったんだ。僕さ、あんまり誘ったことなかったろ？
照れもあったし．．．。ずっと一緒に居られると思ってたからさ。また今度でいいやとか思つて．．．
僕馬鹿だからさ、ずっと一緒に居られると思つてたからさ。

優香 ごめんね。私もずっと一緒に居たかったよ。圭太ともつというんな話がしたかった。圭太ともつというんな所に行きたかった。おいしいもの食べて、遊んで、笑つて、仕事して、一緒に居たかった。ずっとずっと一緒に居たかった。ごめんね、尽くしますって約束したのに。

圭太 大丈夫。優香はたくさん尽くしてくれた。本当にね、毎日が楽しくてさ、仕事でも家でも楽しくてさ。あ

りがとうだよ。

優香　ありがとうだね。楽しかったね。私も楽しかった。いっぱい笑ったもんね。だから、私も、ありがとう。
圭太　うん。

私ね、こんな性格だし、自分で自分のことがあまり好きじゃなかったの。でも圭太と付き合えて、一緒に暮らして・・・私、いっぱい努力した。圭太にもっと好きになってももらいたくていっぱい頑張った。でね、ある日、ふとさ、自分で自分を見たら「何だ、私っていい女じゃん」って思えたの。私、自分で自分のことが好きになれた。

圭太　頑張ってたもんね。

優香　うん。私、変わった。きつと圭太のおかげ。絶対、圭太のおかげ。

圭太　どういたしまして。

優香　ねえ、圭太。

圭太　ん？

優香　おとこのプレゼンで言ってたこと、あれ、本当？

圭太　あれって？

優香　ごまかす気？一目惚れだったって言ってたじゃない。

圭太　ああ・・・まあね。

優香　プレゼンターに私を指定したって。

圭太　うん。神田さんに。おかげで今でも頭が上がらない。

優香　ベタ惚れだね。

ベタ惚れです。

圭太　・・・ね、圭太。プレゼンの時の“冬の月”ってやつ、もう一回、聞かせて。

優香　気に入ってくれた？

圭太　もちろん。だから、もう一回。

圭太　うん。・・・冬の月。冬の月は高いところにあります。とてもとても高いところにあります。どんなに

傍に居ても、例えば隣を歩いていたらとしても、手が届かないという点では、君と同じです。

優香、ゆっくりと手を差し出す。

優香　圭太、手。

圭太、手を伸ばし、優香の手を掴む。

優香　手、届いたね。

圭太、両手で優香の手を握る。強く握る。

優香　圭太、私ね、幸せ。凄く、凄く幸せ。

圭太　うん。

だからね、私を幸せにしてくれたご褒美。

優香、圭太の手を引っ張り、自分の方へ引き寄せる。優香は正座する、

おいで。膝枕してあげる。

圭太　・・・うん。

圭太、ゆっくり横になる。

優香　どう？

圭太 うん。気持ちいい。

優香 でしょ？気持ちいいでしょ。

圭太 気持ちいいね。．．．こんなに気持ちいいならもっとたくさんしてもらえばよかったなあ。
優香 たくさんしてあげたかった。

優香、優しく圭太の頭をなでる。

圭太 優香。

ん？

寂しいよ。優香がいなくなるの嫌だよ。寂しいよ。

ごめんね。

優香、優しく頭をなで続ける。圭太、ゆっくりと眠る。

優香 ちゃんと洗濯とか出来る？食器もキッチンと洗ってね。たまには自分でご飯作ってね。部屋の掃除も
小まめにやらないと。

間。優香は頭をなで続ける。

優香 ゴミの分別キチンとやってね。下着はタンスの下から2番目の引き出しだからね。救急箱は向こうの部屋
の押入れに入ってるから。あまり夜更かししないでね。仕事もあんまり無理しちゃダメだよ。

間。優香は頭をなで続ける。

優香 でも、大丈夫だよ。圭太はちゃんとやっていけるよね。．．．大丈夫だよ？

優香、ゆっくりと優しく膝の上から頭を下ろし、立ち上がる。

優香 ．．．．．ありがとう。

優香、麗樹の方へ行く。

優香 後で上に何かかけてあげて。

分かった。．．．．．伝えられた？

優香 何かもう胸がいっぱいで．．．でも大丈夫。幸せいっぱいになった。

そう。

でも、本当にこれで良かったのかな？

アンタねえ。自信を持ちなさいよ！一体どれだけの女が自分の気持ちを貰うことができるっていうのさ！
アンタは自分の想いを全うしたんだ。大丈夫。優香は女の私から見ても素敵な女性よ。

麗樹。ありがとう。

優香 お礼を言うのはコッチよ。

優香 あそこのサイドボードの左下に私の通帳とカードが入ってる。

．．．．．？

優香 約束したでしょ？成功報酬よ。暗証番号はね。．．．

言いかける優香を手で制して、

麗樹 もう貰ったから。いろいろ。

優香 でも！

麗樹 充分貰ったから。．．．私ね、来月にでもマッキンリーに行ってくる。

優香 え？

麗樹 搜索とかじゃなくて、彼にね、キッチンとサヨナラを言ってくる。んで、日本に帰ってきたら新しい恋を見

つげようと思う。アンタ達見て、自分で考えて、そう思った。
そっか……。

麗樹　だから、もう充分。ありがとう。

優香　ありがと。ここに來たのが麗樹でよかった。……元気でね。

麗樹　うん。

優香、振り返り、

優香　圭太……圭太！……ちよつとだけ先に行つてね。……またね！

光が優香にあたり、やがて消えていく。優香、照明と同時にほける。

ピンで麗樹と圭太に明かりがあるだけ。麗樹、仕事机から膝かけを取り、圭太にかけてやる。

お疲れ様。

麗樹、下手へはける。時計の音がする。やがて消える。

音楽・山崎まさよし「未完成」

舞台明るくなる。圭太、ゆっくりと起き上がる。周りを見渡す。静寂。

優香がいなくなつてしまつたと実感し、泣きそうになる。暫くして意を決したかのように起き上がり前

を向く。ひざ掛けをイスに戻す。ゆっくりサイドボードに移動し、2人の写真を見る。

写真を置き、センターへ移動。

圭太　目を覚ますと、もう優香はいませんでした。見えないわけではなく、聞こえないわけでもなくて、本当に
いませんでした。それまで普通に暮らしていた部屋がやたら広く感じられて……。なんとなく寂しくて。
それは僕の生きてきた人生の中で間違ひなくワーストワンの寂しさでした。でも、彼女は言いました。幸

せだつて。凄く、凄く幸せだつて言つてくれました。それが僕のエネルギーです。彼女は今でも僕を支え
てくれてるんです。ただ……この1ヶ月があまりにも特別すぎたから、今でも続いているような気が
するんです。いるはずもないのに振り返ると、優香と麗樹先生が……。

圭太、振り返る。舞台の明かりがつく。そこには麗樹におぶさる優香の姿が。3人とも沈黙。

音楽止まる。圭太、首をかしげる。

今日、朝起きたらさ、とりつかれてた。

はい？

言い残したことがあるから無理やり返つてきたわよ！

アンタねえ、そういう自然の法則、無視したことしないでくれる？あの特訓はなんだつたのよ！

大丈夫。すぐ戻るから。……圭太……圭太……！

優香、麗樹の背中から降りる。

この間、冷蔵庫に入つてた私のプリン、食べたでしょ……！

右手を振り上げて圭太に襲い掛かる優香。

ごめんなさ……い……！

逃げる圭太。

音楽・スキマスイッチ「ガラナ」

3人がドタバタしている中、幕。